

横浜市がん撲滅対策推進条例に基づく平成 29 年度実施状況について

横浜市がん撲滅対策推進条例 第 18 条に基づき、
平成 29 年度の横浜市のがん対策に関する施策の実施状況を報告します。

「横浜市がん撲滅対策推進条例」は、横浜市のがん対策に関する施策の基本となる事項を定めることにより、がんの予防及び早期発見に資するとともに、全ての市民が適切ながんに係る医療を受けられるようにするための総合的ながん対策を推進することを目的に、平成 26 年第 2 回市会定例会において市会議員全員の提案により成立し、10 月に施行されました。

※二重線は、平成 29 年度新規の取組

※本資料の項番号は、報告書の項番号と一致させています。

総括（報告書 1 ページ）

■「総合的ながん対策の推進」

「横浜市がん撲滅対策推進条例」の趣旨に基づき、総合的ながん対策の推進に取り組んでいます。平成 29 年度は「よこはま保健医療プラン 2018」を策定し、その中のがんに関する部分を、本市の「がん対策推進計画」として位置付けました。

1 がんの予防の推進（第 6 条関係）（報告書 2 ページ）

区役所 健康福祉局

喫煙、食生活などの生活習慣などが健康に及ぼす影響について、普及啓発を行いました。

- ・ライフステージに合わせた禁煙・喫煙防止啓発リーフレットを作成し、区民まつりや乳幼児健康診査、肺がん検診等で配布しました。
- ・「横浜健康経営認証」の評価項目の中に「喫煙率」の項目を設け、希望する企業に対し、「禁煙・受動喫煙防止」に関する情報提供・講座開催による支援を実施しました。

教育委員会事務局

市内中学校において、がん教育のモデル授業（公開）を開催し、学校長、教諭、養護教諭等とともに、外部講師（医師）、県内の他自治体の担当者等とがん教育の方法や次年度以降の取組について意見交換を行いました。

2 がんの早期発見の推進（第 7 条関係）（報告書 3-8 ページ）

(1) がん検診の状況（報告書 3-6 ページ）

健康福祉局

職場の検診などの受診機会のない方で、一定の年齢要件等を満たす市民の方に、がん検診を実施しました。

受診率向上に向けた取組として、子宮頸がん、乳がんの検診初年度の方など約 5 万人に無料クーポン券を送付したほか、無料クーポン券の対象者以外の方（約 186 万人）に、個別勸奨通知を送付しました。

《本市が実施するがん検診の受診者数》

	27 年度	28 年度	29 年度
胃がん	64,093	59,967	58,458
肺がん	80,116	89,356	94,505
大腸がん	162,283	138,088	136,874
子宮がん	111,329	114,070	114,924
乳がん	77,504	68,883	59,791

単位：人

(3) 各区局での取組 (報告書8ページ)

区役所

- ・子育て中の親を対象にした乳がん触診モデルを用いた自己触診法の紹介や受診啓発
- ・がん予防に有効な生活習慣と受診の必要性を内容としたがん講演会の開催
- ・イベントでのがん検診に関する広報活動

健康福祉局

受診率向上に向けた取組として、ピンクリボンかながわと連携してイベント等でのがん検診についてのPRを行いました。

水道局

横浜市オフィシャルウォーター「はまっ子どうし The Water」のピンクリボンボトルの製造・販売など、がん検診に関する広報活動を行いました。

こども青少年局

「子宮頸がん検診(細胞診)」は妊婦健康診査の検査項目となっており、妊婦健康診査費用補助券を母子健康手帳の交付時に配布しました。



「はまっ子どうし The Water」のピンクリボンボトル

3 がんに係る医療の充実 (第8条関係) (報告書9-12ページ)

(1) がん診療連携拠点病院等 (報告書9ページ) 医療局・医療局病院経営本部

市内のがん診療連携拠点病院は県の指定病院を含め、市内で13病院が指定されています。

(2) 高度で先進的な医療技術 (報告書10ページ) 横浜国立大学

横浜国立大学附属病院では、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術が平成29年7月1日付けで先進医療に承認されました。

(4) 横浜市乳がん連携病院 (報告書11ページ) 医療局

乳がん患者に対するチーム医療により、診療のほか患者支援や診療所との連携を推進するがん診療連携病院を「横浜市乳がん連携病院」として指定しました。(4病院)

(5) 横浜市小児がん連携病院 (報告書11ページ) 医療局

小児がんにおける診療体制の充実や相談支援体制の構築を図るために、小児がん診療に実績のある病院を「横浜市小児がん連携病院」として指定しています。(4病院)

4 がん患者及びその家族等への支援 (第9条関係) (報告書13-17ページ)

(1) がんの相談 (報告書13ページ) 医療局・医療局病院経営本部

がん診療連携拠点病院等にはがん相談支援センターが設置されており、がんについて詳しい看護師や生活全般について相談できるソーシャルワーカーなどが、患者や家族の相談に対応しています。

(2) がんに関する子どもへのサポート支援 (報告書13ページ) 医療局

療養中の子どもとその家族の支援を行う専門資格者、チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)を新たに小児がん連携病院に試行派遣し、小児がん患者、保護者、家族及びきょうだい児へのサポートを実施しました。

(3) 仕事と治療の両立支援 (報告書13-14ページ) 医療局・経済局

がん患者及びその家族等への支援として、事業者向けセミナーや病院が実施する市民公開講座において、会場に相談コーナーを設け、社会保険労務士(労働問題や社会保険を専門とする国家資格者)による個別相談を実施しました。

また、事業所への支援として、がん患者が働きやすい環境づくりを進めるため、研修等に使用できる映像資料(DVD)、リーフレット、ポスターをよこはまグッドバランス賞認定企業等の市内事業所に配布し、がん患者の治療と仕事の両立支援への理解・普及を進めました。

(4) ピアサポートの推進 (報告書 14 ページ) **医療局・医療局病院経営本部**

がん経験者やその家族が自身の経験を活かして相談に応じるピアサポーターを養成するため、ピアサポーターについての理解を深める体験型研修会を行いました。また、ピアサポーターによる相談の場を増やすため、相談事業を実施する市内3病院に対して補助を行いました。

(5) アピアランス (外見) ケアへの支援 (報告書 15 ページ) **医療局**

医療機関でのアピアランスケアの重要性や患者支援の方法を学ぶため、国立がん研究センター中央病院アピアランスセンターに委託し、がん診療に携わる医療従事者への講演会やがん診療連携拠点病院等の医療従事者向けに研修を行い、医療機関でのアピアランスケアを実施する人材を養成しました。また、がんの治療に伴う頭髪の脱毛に悩む患者の社会参加や就労継続を支援するため、引き続きウィッグや帽子等の購入経費の一部補助を行いました。



医療従事者向け研修

(6) 若年者の在宅ターミナルケア支援 (報告書 15 ページ) **医療局**

20～39 歳のがん末期と診断された方の在宅生活を支援するために、在宅療養の際に利用する訪問介護や福祉用具貸与等のサービスにかかる経費の一部補助を行いました。

(7) NPO法人が行うがんに関する市民啓発、人材育成事業の支援 (報告書 16 ページ) **医療局**

がん患者及び家族の支援を目的としたNPO法人が実施する事業に対する補助を行いました。

(8) 市立病院及び市立大学での取組 (報告書 16-17 ページ) **医療局病院経営本部**

横浜市立大学附属市民総合医療センターで、「がんサロン」を開始し、がん患者やその家族等を支援しました。

(9) がん患者への支援 (報告書 17 ページ)

健康福祉局

小児慢性特定疾病のうち、小児がんを含む特定の疾患について、医療費の自己負担分の一部補助及び福祉サービスを行いました。

文化観光局

「クラシック・ヨコハマ」の一環として、小児がん征圧キャンペーン「生きる～2018 New Year 若い命を支えるコンサート」(主催：毎日新聞社)を実施しました。

健康福祉局・医療局

がん征圧・患者支援チャリティ活動「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017」(主催：日本対がん協会／リレー・フォー・ライフ・ジャパン横浜実行委員会)を共催しました。

5 緩和ケアの充実 (第10条関係) (報告書 18 ページ)

(1) 緩和ケアを提供する医療機関 **医療局**

市内で緩和ケア病床を有する病院は9病院、181床となっています。

(2) 緩和ケアに関する市民啓発 **医療局**

市民啓発の一環として、がんの疼痛緩和をテーマとした市民公開講座及び講演会を共催・後援し、緩和ケアの充実に向け、市民意識の向上を図りました。

6 在宅医療の充実（第11条関係）（報告書19ページ）

区役所・医療局

在宅医療と介護の連携推進に向け、横浜市医師会と協働し、在宅医療連携拠点の運営（18区）を行いました。また、地域の医療・介護に携わる職種への研修を行い、がん患者の在宅療養を支援しました。

7 医療従事者の育成及び確保（第12条関係）（報告書19ページ）

医療局

がんに関する専門看護師、認定看護師及び認定薬剤師等の養成のための人材教育経費を負担する医療機関等に対し補助を行い、がんに関する専門性の高い技術を持つ医療従事者の育成を支援しました。

〈支援対象〉専門看護師：精神看護（1人）、認定薬剤師：がん薬物療法（3人）、外来がん治療（2人）
認定看護師：緩和ケア（5人）、がん化学療法看護（1人）

8 情報の収集及び提供等（第13条関係）（報告書20-23ページ）

医療局

10月に「横浜市がん対策推進キャンペーン」として、横浜市営地下鉄やJR根岸線など6路線での貸切広告列車や、横浜駅での大型広告、市内4か所でのラベンダーライトアップを行いました。また、区民まつり等イベントでラベンダーリボンなどを配布しました。

また、横浜市内におけるがん対策に関する市民の意識調査を実施しました。



ラベンダーライトアップ

医療局病院経営本部

市民病院では、予防やがん検診受診のきっかけとして、市民公開講座を実施したほか、横浜国立大学の学生や教職員を対象としたがん啓発講習会を実施しました。

文化観光局

世界肺癌学会の開催を支援したほか、MICEを活用した次世代育成事業として、学会主催者との共催で市内在住・在学の小・中学生を対象とした「ジュニアセミナーin横浜」を開催しました。

教育委員会事務局

市立図書館では、医療や健康、がんの診断・治療・闘病、がん検診に関する企画展示を実施し、ブックリストやパンフレット、ちらしを配布しました。また、横浜市立大学と共催で大腸がんに関する講座も開催しました。

国際局・健康福祉局・医療局・医療局病院経営本部

包括連携協定を締結している独立行政法人国際協力機構（JICA）が、平成27年より実施している「セルビア国『国家乳がん早期発見プログラム改善プロジェクト』」の受入研修に際し、市民病院や市立大学附属病院等と連携し、横浜市における検診や治療について研修を実施しました。

9 がん研究の推進（第14条関係）（報告書24ページ）

医療局

横浜市立大学における先進的ながん治療に関する研究を支援するため、研究費及び研究を支援する人件費を補助しました。

〈主な研究〉・切除不能痔・消化管神経内分泌腫瘍に対するカペシタビン、テモゾロミド併用化学療法（CAPTEM）の有用性、安全性に関する検討
・Birt-Hogg-Dubé（BHD）症候群の遺伝子診断と診療
〈研究者の支援を行う人材による主な研究支援〉研究費獲得に向けた研究計画書の作成支援セミナー開催

10 平成30年度のがん対策関連の主な新規・拡充事業（報告書25ページ）

がん検診の再勧奨通知（拡充）、乳がん患者に対してのチーム医療の促進（拡充）、小児がん患者等へのサポート体制の確保（拡充）、緩和ケア推進に向けた体制構築のための検討会（新規）



平成 29 年度

横浜市がん撲滅対策推進条例に基づく
実施状況報告書

平成 30 年 9 月

横 浜 市

— 目 次 —

I 総括	1
II 実施状況	2
1 がんの予防の推進（第6条関係）	2
(1) 主な取組	
(2) 各区局の主な取組状況	
2 がんの早期発見の推進（第7条関係）	3
(1) がん検診の状況	
(2) 市立病院での取組	
(3) 各区局での取組	
3 がんに係る医療の充実（第8条関係）	9
(1) がん診療連携拠点病院等	
(2) 高度で先進的な医療技術	
(3) 地域連携クリティカルパス	
(4) 横浜市乳がん連携病院	
(5) 横浜市小児がん連携病院	
4 がん患者及びその家族等への支援（第9条関係）	13
(1) がんの相談	
(2) がんに関する子どもへのサポート支援	
(3) 仕事と治療の両立支援	
(4) ピアサポートの推進	
(5) アピアランス（外見）ケアへの支援	
(6) 若年者の在宅ターミナルケア支援	
(7) NPO法人が行うがんに関する市民啓発、人材育成事業の支援	
(8) 市立病院及び市立大学での取組	
(9) がん患者への支援	
5 緩和ケアの充実（第10条関係）	18
(1) 緩和ケアを提供する医療機関	
(2) 緩和ケアに関する市民啓発	
(3) 市立病院及び市立大学での取組	

6	在宅医療の充実（第11条関係）	19
7	医療従事者の育成及び確保（第12条関係）	19
8	情報の収集及び提供等（第13条関係）	20
	(1) 市立図書館からの情報提供及び情報発信	
	(2) 市立病院及び市立大学からの情報提供	
	(3) 市立病院及び市立大学からの情報発信	
	(4) 骨髄移植普及啓発事業	
	(5) がんに関する国際協力	
	(6) 情報の収集	
9	がん研究の推進（第14条関係）	24
	横浜市立大学におけるがん研究の支援	
10	平成30年度のがん対策関連の主な新規・拡充事業	25
III	各区局の実施状況	26
IV	参考資料	89
	・統計資料	
	・横浜市がん撲滅対策推進条例	

本文中の下線部は、平成 29 年度からの新規取組です。

I 総括

「横浜市がん撲滅対策推進条例」（以下「条例」という。）は、横浜市のがん対策に関する施策の基本となる事項を定めることにより、がんの予防及び早期発見に資するとともに、全ての市民が適切ながんに係る医療を受けられるようにするための総合的ながん対策を推進することを目的に、平成 26 年 10 月に施行されました。

このたび、条例第 18 条に基づき、平成 29 年度の横浜市のがん対策に関する施策の実施状況を報告します。

平成 29 年度は、国の第 3 期がん対策推進基本計画が閣議決定され、時代の流れを踏まえてがんを克服するための方向性が新たに示されました。

横浜市では、「よこはま保健医療プラン 2013」（計画期間：平成 25 年度～平成 29 年度）の見直しを行い、「よこはま保健医療プラン 2018」（計画期間：平成 30 年度～平成 35 年度）を策定しました。その中で、平成 28 年 3 月策定の「横浜市がん対策の今後の進め方」の見直し作業を行い、よこはま保健医療プラン 2018 のがんに関する部分を、本市の「がん対策推進計画」として位置付けました。

市内の推進体制として設置している「がん対策推進会議」において、6 月に関係課長会議、7 月にがん対策推進会議を開催し、各区局のがん対策に関わる事業の実施状況について情報共有をしたほか、1 月にも関係課長会議を開催し、本市の総合的ながん対策やがん対策に関する広報について、各所管課との意見交換を行いました。

がん対策推進会議（委員構成）

副市長、港南区長、政策局長、経済局長、こども青少年局長、健康福祉局長、保健所長、医療局長、教育長、横浜市立大学事務局長

Ⅱ 実施状況

1 がんの予防の推進（第6条関係）

喫煙、食生活等の生活習慣及び生活環境が健康に及ぼす影響に関する知識の普及啓発や、がんの予防の推進のために必要な施策を実施しました。

(1) 主な取組

がんの予防の推進については、「健康横浜 21」、「よこはま保健医療プラン 2013」の計画に基づき、各区局において様々な啓発活動を行いました。

主な啓発活動としては、ライフステージに合わせた禁煙・喫煙防止啓発リーフレットを作成し、5月31日の世界禁煙デーや区民まつり、乳幼児健康診査や肺がん検診等で配布しました。18区別の禁煙外来マップを更新し、区福祉保健課や禁煙支援薬局等にて、禁煙を希望する人への支援を目的として、関係機関・団体へ配布しました。

また、「横浜健康経営認証」の評価項目の中に、「喫煙率」の項目を設け、希望する認証企業に対し、「禁煙・受動喫煙防止」に関する情報提供・講座開催による支援を実施しました。

さらに、小中高生など未成年者への喫煙防止教育や、横浜市薬剤師会と連携した禁煙を支援する薬局への研修会の開催、終日禁煙を実施する飲食店の登録など、受動喫煙を受けない環境づくり（健康福祉局）を進め、がんの予防の推進を図りました。

横浜健康経営認証

従業員等の健康保持・増進の取組が、将来的に企業の収益性等を高める投資であると捉え、従業員等の健康づくりを経営的な視点から考え、戦略的に実践する「健康経営」の概念を幅広く普及させるため、健康経営に取り組む事業所を、横浜健康経営認証事業所として認証しています。

(2) 各区局の主な取組状況

区福祉保健センターにおいて、禁煙相談を行いました。また、世界禁煙デーなど各種イベントでの喫煙防止パネル展示や肺年齢測定、保健活動推進員と協働した禁煙啓発、両親教室での禁煙講話等を実施しました。

そのほか、文部科学省の「がんの教育総合支援事業」を受託している神奈川県と連携し、学校におけるがん教育の方法、教材の作成等について検討を行いました。その一環として、市内の中学校においてがん教育のモデル授業（公開）を開催し、学校長、教諭、養護教諭等とともに、外部講師（医師）、県内の他自治体の担当者等とがん教育の方法や次年度以降の取組について意見交換を行いました（教育委員会事務局）。

2 がんの早期発見の推進（第7条関係）

がんの早期発見、がん検診の受診率及び質の向上等を図るために必要な施策を実施しました。

(1) がん検診の状況

ア 市民のがん検診受診率

本市の目標は国と同様に、平成28年のがん検診受診率を、50%（胃、肺、大腸がんは当面40%）としていました。胃がん、肺がん、大腸がんは目標を達成し、子宮がん及び乳がんについても、受診率は着実に向上しています。

《受診率の実績》

	平成22年 実績	平成25年 実績	平成28年 実績	【参考】 平成28年 全国平均
胃がん	32.0%	37.6%	42.6%	40.9%
肺がん	20.8%	37.6%	45.5%	46.2%
大腸がん	21.7%	35.8%	41.9%	41.4%
子宮がん	39.6%	44.6%	46.1%	42.3%
乳がん	41.5%	43.0%	45.7%	44.9%

※ 国民生活基礎調査に基づく市民のがん検診受診率

胃がん、大腸がん、子宮がん、乳がん検診については全国平均を上回ることができました。国の第3期がん対策推進基本計画を踏まえ、平成34年度までに男女ともがん検診の受診率目標値を50%とし、更なる受診率向上に向け取組を進めます。

【国民生活基礎調査とは】

保健、医療、福祉、年金、所得等国民生活の基礎的事項を調査し、厚生労働行政の企画及び運営に必要な基礎資料を得るとともに、各種調査の調査客体を抽出するための親標本を設定することを目的としています。

大規模調査（3年ごと）と簡易調査（毎年）があり、大規模調査時のがん検診の受診に関する調査を実施しているため、実績の把握は3年ごとになります。

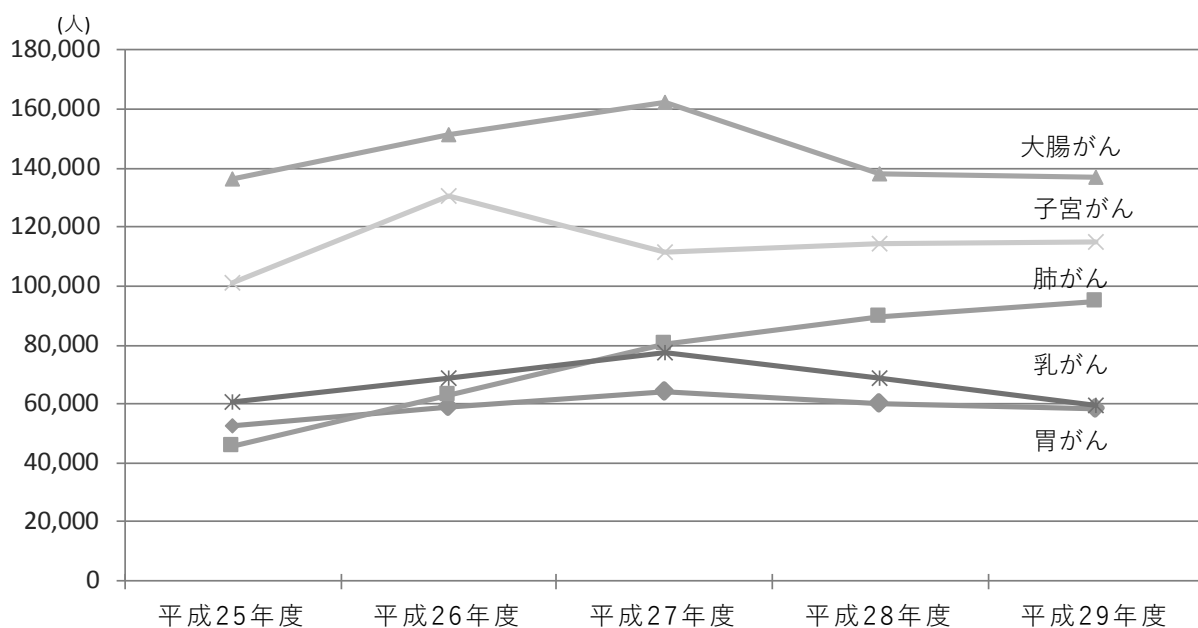
イ 本市が実施するがん検診の現状

がんの早期発見・早期治療を促進する取組として、職場の検診などのほかに受診機会のない方で、一定の年齢要件を満たす市民の方に、がん検診実施医療機関及び区福祉保健センター等でがん検診を実施しました。

本市が実施するがん検診事業の受診者数の推移

単位：人

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
胃がん	52,845	58,835	64,093	59,967	58,458
肺がん	45,572	62,723	80,116	89,356	94,505
大腸がん	136,420	151,264	162,283	138,088	136,874
子宮がん	101,294	130,797	111,329	114,070	114,924
乳がん	60,656	68,794	77,504	68,883	59,791
計	396,787	472,413	495,325	470,364	464,552



ウ 受診率向上に向けた取組

子宮頸がん、乳がんの検診初年度の方など約5万人を対象に無料クーポン券を送付したほか、無料クーポン券の対象者以外の方（約186万人）に個別の受診勧奨を行いました。勧奨通知は、対象者の性別や年齢に合わせた内容でお送りしています。

さらに、無料クーポン券または受診勧奨通知が送付された方のうち特定の年齢の方（20・25・30・35歳（女性）40・45・50・55・60歳（男女）約34万3千人）へ再勧奨通知を送付し受診の働きかけを強化しました。

《無料クーポン券》年齢の基準日：平成29年4月1日

対象検診	対象者	配布人数 (A)	受診者数 (B)	利用率 (B)/(A)%
子宮頸がん	20歳	18,361	1,773	9.7%
	妊婦健康診査対象者 (妊娠届出者数)	30,950	20,856	66.8%
乳がん	40歳	27,329	6,425	23.5%

《個別勧奨通知》年齢の基準日：平成29年4月1日

対象者	送付内容
21歳～39歳の女性	<ul style="list-style-type: none"> 子宮がん検診の啓発冊子 横浜市子宮がん検診実施医療機関名簿
40歳～68歳の男性・女性 (無料クーポン券対象者を除く)	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市がん検診ガイド 横浜市がん検診実施医療機関名簿

《受診勧奨通知または無料クーポン券が送付された方への再勧奨通知》

年齢の基準日：平成29年4月1日 送付日：平成29年11月6日

対象者	送付内容
子宮頸がん無料クーポン券送付者 (20歳女性)	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市からのご案内 子宮頸がん検診リーフレット
乳がん無料クーポン券送付者 (40歳女性)	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市からのご案内 乳がん検診リーフレット 横浜市がん検診ガイド
受診勧奨通知送付者 20・25・30・35歳（女性）	子宮がん検診案内ハガキ
受診勧奨通知送付者 40・45・50・55・60歳（男女）	がん検診案内ハガキ

エ 受診環境の整備

受診しやすい環境の整備として、各がん検診の自己負担額を全額自己負担した場合の概ね2割と定め、受診者の費用負担の軽減を図っています。

検診の種類	検査内容	受診者の自己負担額		全額負担した場合（目安）
胃がん	エックス線検査	3,140円		約13,000円
	内視鏡検査			約15,000円
肺がん	胸部X線検査	680円		約7,000円
大腸がん	便潜血検査	600円		約2,000円
子宮がん	細胞診検査	頸部	1,360円	約6,000円
		頸部+体部	2,620円	約14,000円
乳がん	視触診 + マンモグラフィ	1,370円 (視触診690円、 マンモグラフィ680円)		約9,000円
前立腺がん (PSA検査)	血液検査	1,000円		約4,000円

※全額負担の場合の料金は医療機関、検査内容によっても異なります。

※自己負担額には減免制度があります。制度の対象となる方は以下のとおりです。

- 1 70歳以上の方
- 2 後期高齢者医療制度が適用される方
- 3 生活保護世帯の方
- 4 中国残留邦人支援給付制度が適用される方
- 5 市民税県民税の非課税世帯・均等割りのみ課税世帯の方
(事前に居住区の区役所健康づくり係で手続きが必要です)

(2) 市立病院での取組

市立病院では、検診から診断、治療等、がんに対する診療体制を確保し、総合的な対応や集学的な治療、先進的で質の高い医療を提供しています。

また、がんの早期発見、早期治療に向けたがん検診推奨のため、市民セミナー等を実施し、啓発活動に努めています。

ア 市民病院 がん検診センター

横浜市がん検診（胃、肺、大腸、子宮、乳、前立腺（P S A検査））と病院独自のオプション検診（胃がんリスク検診（A B C検診）、喉頭・咽頭、肝胆膵、婦人科超音波（卵巣）、口腔、前立腺（40～49歳）、肺ヘリカルC T、P E T－C T）の14項目の検診が、検診項目ごとに受診できるようになっています。

また、利用者の利便性向上のため、インターネット予約により、24時間検診の申込みができる環境を整備しています。

がんの疑いがある受診者には、より精密な二次検診や経過観察を実施し、総合的かつ速やかに診断、治療が行える体制を整えています。

また、育児中の方が受診しやすいよう、がん検診受診者を対象にした預かり保育を実施しています。

《検診受診件数》

※胃がんリスク検診（ABC検診）は平成29年9月から実施

検診種別	受診件数		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
胃がん検診	2,821件 (内訳) X線 2,667件 内視鏡 154件	2,665件 (内訳) X線 2,065件 内視鏡 600件	2,492件 (内訳) X線 1,724件 内視鏡 657件 ABC検診 111件
肺がん検診	4,061件	3,772件	2,926件
大腸がん検診	4,148件	3,636件	3,389件
子宮がん検診	2,968件	3,589件	3,312件
乳がん検診	3,408件	3,172件	3,186件
前立腺がん検診(P S A検査)	1,401件	1,306件	1,221件
婦人科超音波検査	2,675件	2,682件	2,470件
喉頭・咽頭がん検診	1,613件	1,090件	1,070件
肝胆膵がん検診	3,724件	3,538件	3,277件
口腔がん検診	380件	372件	566件
前立腺がん検診(40～49歳)	241件	261件	206件
肺ヘリカルC Tがん検診	283件	272件	873件
P E T－C Tがん検診	137件	104件	111件
合計	27,860件	26,459件	25,099件

イ みなと赤十字病院 健診センター

横浜市のがん検診の他に、標準コースの1日ドック、2日ドックに加えて、臓器に特化した大腸ドックや肺ドックなどのほか、レディースドック、スーパーがんどック、P E T－C Tスーパーがんどックなど豊富な検診で、一人ひとりのニーズに合わせた「オーダーメイドヘルスチェック」を受けることができます。

横浜 Leaf 献血ルームで献血者に対して、健康相談とがん検診・人間ドック健診の受診勧奨を行うとともに、二次受診勧奨と追跡調査により、がん発見に努めました。

また、受診者の利便性に配慮してインターネット予約を開始しています。

平成29年6月には「人間ドック健診施設機能評価」の認定を取得しました。

《検診受診件数》※横浜市がん検診のみを記載

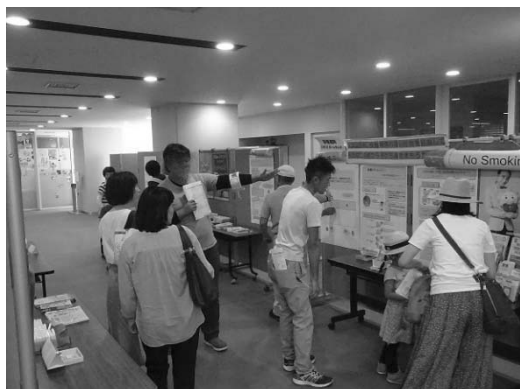
検診種別	受診件数		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
胃がん検診	1,134件 (内訳) X線 984件 ※内視鏡 150件	1,103件 (内訳) X線 869件 ※内視鏡 234件	1,127件 (内訳) X線 834件 ※内視鏡 293件
肺がん検診	1,276件	1,385件	1,456件
大腸がん検診	1,513件	1,476件	1,514件
子宮がん検診	447件	461件	679件
乳がん検診	784件	801件	786件
前立腺がん検診(P S A検査)	588件	606件	669件
上部消化管がん検診	1,966件 (内訳) X線 554件 内視鏡 1,412件	2,109件 (内訳) X線 531件 内視鏡 1,578件	2,122件 (内訳) X線 473件 内視鏡 1,649件
大腸内視鏡がん検診	134件	137件	144件
肺C Tがん検診	344件	368件	370件
P E T - C Tがん検診	107件	112件	121件
合計	8,293件	8,558件	8,988件

(3) 各区局での取組

各区では、啓発及び広報活動として、乳幼児健康診査等の機会を利用し、乳がん触診モデルを用いた自己触診法の紹介や受診啓発、生活習慣改善講座におけるがん検診の普及啓発、がん予防に有効な生活習慣と受診の必要性を内容としたがん講演会の開催(戸塚区)、保健活動推進員による各種イベントでのがん検診に関する広報活動を行いました。

受診率向上に向けた取組として、ピンクリボンかながわと連携してイベント等ががん検診についてのP Rを行った(健康福祉局)ほか、横浜市オフィシャルウォーター「はまっ子どうし The Water」のピンクリボンボトルの製造・販売(水道局)など、乳がん検診に関する広報活動を行いました。

また、「子宮頸がん検診(細胞診)」は妊婦健康診査の検査項目となっており、妊婦健康診査費用補助券を母子健康手帳の交付時に配布しています(こども青少年局)。



イベントでの啓発



「はまっ子どうし The Water」
ピンクリボンボトル

3 がんに係る医療の充実（第8条関係）

がん患者がそれぞれのがんの状態に応じた適切ながんに係る医療を受けることができるようにするため、県及び医療機関と連携し、必要な施策を実施しました。

(1) がん診療連携拠点病院等

がん診療連携拠点病院は、専門的ながん医療の提供を行うとともに、がん診療の連携体制の整備、がん患者に対する相談支援、情報提供等を行う病院で、地域のがん診療の質の向上を図ることを目的に国が指定します。（がん診療連携拠点病院には、都道府県に1か所指定される「都道府県がん診療連携拠点病院」と二次医療圏ごとに指定される「地域がん診療連携拠点病院」があります。）

また、国が指定する地域がん診療連携拠点病院と同等の機能を有する病院として、神奈川県知事が独自に神奈川県がん診療連携指定病院を指定しています。

市内のがん診療連携拠点病院等

病 院 名	所在区	区分※
済生会横浜市東部病院	鶴見区	2
けいゆう病院	西区	3
横浜市立みなと赤十字病院	中区	2
横浜市立大学附属市民総合医療センター	南区	2
済生会横浜市南部病院	港南区	3
横浜市立市民病院	保土ヶ谷区	2
神奈川県立がんセンター	旭区	1
横浜市立大学附属病院	金沢区	2
横浜南共済病院	金沢区	3
横浜労災病院	港北区	2
昭和大学藤が丘病院	青葉区	3
昭和大学横浜市北部病院	都筑区	2
横浜医療センター	戸塚区	3

※区分 1は都道府県がん診療連携拠点病院、2は地域がん診療連携拠点病院、
3は神奈川県がん診療連携指定病院

また、上記の13病院の意見交換会を開催し、がん診療に関する病院間の連携を図り、今後の課題整理等を行いました。

(2) 高度で先進的な医療技術

ア 市民病院

患者への身体的な負担の軽減が期待される、IMRT（強度変調放射線治療）の施設基準を取得し、平成28年4月から前立腺がんでの保険適用を開始しており、平成29年度の治療実績は1,776件でした。

また、厚生労働省がん研究班をはじめ、複数のがん研究に参加するほか、日本医療研究開発機構の研究課題に採択され、がんに対する治療の確立に向けた研究を進める等、新しい治療の開発や承認前の新薬の治療を実施しました。



IMRTが実施できる
放射線治療装置（リニアック）

イ みなと赤十字病院

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による前立腺がんの手術を行いました。先進的な技術により患者には「出血量が少なく、術後の痛みが少ない」「回復が早く、早期退院が可能」などのメリットがあります。

また、高画質の3テスラMRIや一度に全身のがんを発見できるPET/CTなど高度な検査機器を用いることにより、従来の装置では発見することが難しかった小さな病変を見つけることが可能となり、他の検査では確定できないがんの再発や転移に有用であるなど、早期発見・治療に役立っています。

ウ 横浜市立大学附属病院及び横浜市立大学附属市民総合医療センター

手術療法、放射線療法、化学療法など、高度ながん医療を実施していくために必要な医療機器について、計画的な更新や新規導入を行い、医療水準の維持及び向上を図っています。

横浜市立大学附属病院では手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」によるロボット支援型手術について、すでに保険収載されている前立腺がん及び腎がんのほか、臨床研究として胃がんと直腸がんを中心に実施しました。



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」操作風景

また、婦人科領域については、内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術が平成29年7月に、腹腔鏡下広汎子宮全摘術が平成29年11月に先進医療に承認されました。

平成28年11月よりがん遺伝子検査外来を設立し、がん組織における遺伝子の変化を解析して効果的な薬剤を探索する検査である、がん遺伝子検査の提供を開始し、平成29年度は59件検査を実施しました。

(3) 地域連携クリティカルパス

がん診療連携拠点病院等では、手術や放射線治療等の専門的ながん治療を終えたがん患者を、地域医療機関と共同して診察するために、地域連携クリティカルパスを整備しています。

(4) 横浜市乳がん連携病院（医療局）

乳がんは、家庭や職場で中心的な役割を担う世代の罹患が多く、子育て、就労等の社会的な面のサポートや副作用によるアピアランス（外見）ケアやメンタルケアをしながらの治療が実施されることが望まれます。

そのため、乳がん患者に対するチーム医療により、診療のほか患者支援や診療所との連携を推進するがん診療連携拠点病院を「横浜市乳がん連携病院」として指定しました。

横浜市乳がん連携病院

病 院 名	所在区
横浜市立みなと赤十字病院	中区
横浜市立大学附属市民総合医療センター	南区
横浜市立大学附属病院	金沢区
横浜労災病院	港北区

(5) 横浜市小児がん連携病院（医療局）

小児がんにおける診療体制の充実や相談支援体制の構築を図るために、小児がん診療に実績のある4病院を「横浜市小児がん連携病院」として指定しています。

なお、神奈川県立こども医療センターは、国により小児がん拠点病院に指定されています。小児がん拠点病院は、小児がんの医療及び支援を提供する地域の中心施設として、地域における小児がん医療及び支援の質の向上のけん引役を担っています。

横浜市小児がん連携病院

病 院 名	所在区
神奈川県立こども医療センター	南区
済生会横浜市南部病院	港南区
横浜市立大学附属病院	金沢区
昭和大学藤が丘病院	青葉区

また、小児がん連携病院会議を2回開催し、患者支援・長期フォローアップの取組やアンケート調査、よこはま保健医療プラン 2018 などについて意見交換を行いました。

神奈川県立こども医療センターは小児がん連携病院のうち、横浜市が指定する病院として横浜市小児がん相談窓口を設置し、小児がんに関する相談及び情報提供を行っています。平成29年度は患者支援者向けセミナーや市民向け啓発イベント、市民向け公開講座を実施しました。

- ・「第5回小児がん相談支援室セミナー
高校生の小児がん患者の教育支援について考えよう」
平成30年1月13日（土）14：00～16：30 神奈川県立こども医療センター講堂
- ・「小児がん啓発イベント みんなで知ろう小児がんのこと！」
平成30年2月17日（土）14：00～16：00
横浜駅東口地下そごう前新都市プラザ催事スペース
- ・「第3回小児がん市民公開講座 小児がん患者・家族の支援の輪を広げよう！」
平成30年3月3日（土）13：30～15：30 TKPガーデンシティ横浜

4 がん患者及びその家族等への支援（第9条関係）

がん患者の療養生活の質の向上、がん患者及びその家族等の精神的な苦痛、社会生活上の不安等を軽減するため、医療機関等と連携し必要な施策を実施しました。

(1) がんの相談

市民病院、みなと赤十字病院、横浜市立大学附属病院及び横浜市立大学附属市民総合医療センターでは、がん相談支援センター等の活動を通してがん患者及びその家族に対する支援を行いました。

(2) がんに関する子どもへのサポート支援（医療局）

新たに療養中の子どもとその家族の支援を行う専門資格者、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）を小児がん連携病院に試行派遣し、小児がん患者、保護者、家族及びきょうだい児へのサポートを実施しました。

派遣先	派遣期間（日数）
昭和大学藤が丘病院	12月4日～2月16日（計40日）
横浜市立大学附属病院	1月29日～3月30日（計40日）

チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）

チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）は、医療環境にある子どもや家族に、心理社会的支援を提供する専門職です。子どもや家族が抱える精神的負担を軽減して、主体的に医療体験に臨めるよう支援します。

(3) 仕事と治療の両立支援

ア がん患者及びその家族等並びに事業所への支援（医療局）

がん患者及びその家族等への支援として、事業者向けセミナーや病院が実施する市民公開講座において、会場の一部に相談コーナーを設け、社会保険労務士による個別相談を実施しました。

また、事業所への支援として、がん患者が働きやすい環境づくりを進めるため、研修等に使用できる映像資料（DVD）、リーフレット、ポスターをよこはまグッドバランス賞認定企業等の市内事業所に配布し、がん患者の治療と仕事の両立支援への理解・普及を進めました。

イ 横浜しごと支援センターでの支援（経済局）

横浜しごと支援センターでは、様々な「しごと」に関する悩みに対してトータルで相談を受け付けています。

神奈川県社会保険労務士会の協力により、横浜しごと支援センターに社会保険労務士（労働問題や社会保険を専門とする国家資格者）を派遣し、がん患者の治療と仕事の両立に向けた相談に対応しました。平成 29 年度の社会保険労務士の派遣回数は 12 回、相談件数は 17 件でした。

また、平成 28 年度に引き続き、市内企業の人事・労務担当者、及び市民向けにがん患者の就労をテーマとしたセミナーを実施しました。

労働実務セミナー

「がん患者の仕事と治療の両立支援について～企業が両立のためにできること～」

平成 29 年 11 月 28 日（火）15：00～17：00 横浜市技能文化会館 8 階

(4) ピアサポートの推進（医療局・医療局病院経営本部）

がん患者や家族の悩み・不安に対して、がん経験者やその家族等が自身の経験を活かして相談を受ける（ピアサポート）場を増やすため、必要な施策を実施しました。

ア ピアサポーター体験型研修

がん患者やその家族の相談に応じるピアサポーターを養成するため、ピアサポーターについての理解を深める体験型研修会を実施しました。

「横浜市ピアサポーター体験型研修」

平成 30 年 3 月 21 日（水・祝）10：00～17：00 横浜市立大学附属病院

イ ピアサポーターによる相談事業への支援

がん患者及びその家族ががん経験者等に不安や悩みを相談できる場の増加を図るために、ピアサポーターによる相談事業を実施する市内 3 病院に対し、補助金を交付しました。

また、横浜市立市民病院でもピアサポーターによる相談を実施しています。

《実施状況》

病 院 名	開 催 日 時
済生会横浜市南部病院	毎週月・金曜日 11：00～16：00
神奈川県立がんセンター	第 1～4 金曜日 10：00～15：00
横浜労災病院	第 3 または第 4 金曜日 13：30～15：30
横浜労災病院（乳がん）	毎週火・水曜日 10：30～15：00
横浜市立市民病院	第 2 金曜・第 4 水曜日 11：00～16：00

(5) アピランス（外見）ケアへの支援（医療局）

ア がん患者へのウィッグ等購入経費の補助

抗がん剤の副作用等、がんの治療に伴う頭髪の脱毛に悩む患者の社会参加や就労継続を支援するため、ウィッグや帽子等の購入経費の一部補助を行いました。

《交付件数：1,197件》

イ がん診療連携拠点病院等でのアピランスケアに関する取組への支援

市内医療機関において、がん患者やその家族に対して、がん患者の外見上の変化に関する情報やケアの提供がなされるよう、がん患者のアピランスケアに取り組むがん診療連携拠点病院等に経費の一部補助を行いました。

《実施状況》

神奈川県立がんセンター、横浜市立みなと赤十字病院、けいゆう病院、
済生会横浜市南部病院

患者との個別相談、患者会等向けセミナー・学習会

ウ がん診療連携拠点病院等向け講演会の開催

医療機関でのアピランスケアの重要性や患者支援の方法を学ぶため、国立がん研究センター中央病院アピランスセンターに委託し、がん診療に携わる医療従事者への講演会やがん診療連携拠点病院等の医療従事者向けに研修を行い、医療機関でのアピランスケアを実施する人材を養成しました。

- ・市内医療従事者向け講演会（平成29年11月6日、参加者：21病院105人）
- ・がん診療連携拠点病院等医療従事者向け研修（第1回：平成30年1月26日、第2回：平成30年3月2日、各回参加者：10病院26人）



医療従事者向け講演会（11月）



医療従事者向け研修（1月）

(6) 若年者の在宅ターミナルケア支援（医療局）

小児慢性特定疾病医療費助成や介護保険の対象とならない20～39歳のがん末期と診断された方の在宅生活を支援するために、在宅療養の際に利用する訪問介護や福祉用具貸与等のサービスにかかる経費の一部補助を行いました。《交付者数：10人》

(7) NPO法人が行うがんに関する市民啓発、人材育成事業の支援（医療局）

がん患者及び家族の支援を目的とする活動を支援するため、NPO法人が実施する事業に対する補助を行いました。

・市民公開講座

「シンポジウム 2017～がんになっても安心して暮らすために緩和ケアを理解しましょう～」(NPO法人Spe s Nova)

平成 29 年 12 月 9 日 (土) 12 : 15 ~ 16 : 00 横浜市開港記念会館

・よこはま乳がん学校 (NPO法人神奈川乳癌研究グループ)

乳がん患者に接する医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、診療放射線技師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士等の医療スタッフを対象に患者中心のチーム医療を目指す人材育成事業 (平成 30 年 1 月 ~ 2 月、全 4 回)

(8) 市立病院及び市立大学での取組

ア 市民病院

〈がん患者への就労支援〉

がん相談支援センターにおいて、がん看護専門看護師等が、がん治療や療養生活等医療面のアドバイスをしながら、就労及び就職に向けた相談に対応しています。

また、ハローワーク横浜から派遣された「就職支援ナビゲーター」や社会保険労務士による出張相談をそれぞれ月 1 回実施し、専門の看護師と一緒に、患者の就職・就労に関する支援を行いました。

〈がん体験者等による患者支援〉

がん体験者による相談「ピアサポート」を月 2 回実施し、患者やご家族の気持ちに寄り添った相談を行いました。

イ みなと赤十字病院

〈がん患者への支援〉

がん相談支援センターでは、看護師やソーシャルワーカーなど専門の相談員が、がんに関すること全般について対応しています。

また、がんに関する様々な悩みや不安について、臨床心理士やがん専門看護師、認定看護師が相談を受ける「がん看護サポート外来」を実施しました。

〈「みなとサロン」「患者会」を通じた患者支援〉

患者やその家族を対象に、体と心のバランスを整え自分らしさを取り戻すためのがんサポートプログラム (ストレッチや体操、情報提供やミニレクチャー、語り合う場など) を「みなとサロン」で提供しました。

また、乳がん患者会において、患者と家族、同じ体験をした仲間などが気楽に話し合えたり、不安、悩み、体験談を語り合う場の提供を行いました。

ウ 横浜市立大学附属病院及び横浜市立大学附属市民総合医療センター

〈患者会への支援〉

横浜市立大学附属病院では、「ハートマンマの会（乳がん）」、「わいわいクローバーの会（子宮がん）」、「港笛会（喉頭がん）」、「さんふらわ（小児科親子の会）」、「心愛（ここあ）の会（血液疾患・造血幹細胞移植関係）」、横浜市立大学附属市民総合医療センターでは、「乳がんおしゃべりの会 マンマサロン（乳がん）」、「乳房再建の会再建サロン（乳房再建）」の患者会の活動を支援しました。

〈がんサロンを通じた患者支援〉

がん患者やその家族等を支援し、がん種を問わず誰でも交流できる場を作ることが目的として、がん相談支援センター主催によるがんサロンを開催し、毎月異なるテーマのミニ医療講座と茶話会のプログラムを提供しました。

横浜市立大学附属病院：「はまかぜサロン」を年12回開催

横浜市立大学附属市民総合医療センター：「がんサロン」を年5回開催（平成29年11月から開始）

(9) がん患者への支援

児童福祉法に基づいた小児慢性特定疾病のうち、小児がんを含む特定の疾患について、治療の確立と普及を図り、患者やご家族の負担軽減を目的として医療費の自己負担分の一部補助及び福祉サービスを行いました。（14疾患群722疾患のうち、小児がん（悪性新生物）は91疾患となっています。）（健康福祉局）

「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」の開催に合わせて実施している音楽イベント「クラシック・ヨコハマ」の一環として、小児がん征圧キャンペーン「生きる～2018 New Year 若い命を支えるコンサート」（主催：毎日新聞社）を、平成30年1月14日に横浜みなとみらいホールで実施しました（文化観光局）。

がん征圧・患者支援チャリティ活動として開催される「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017（主催：公益財団法人日本対がん協会／リレー・フォー・ライフ・ジャパン横浜実行委員会）」が、みなとみらい臨港パーク（9月30日・10月1日）で開催され、横浜市は共催して、リレーウォークに参加しました（健康福祉局・医療局）。

5 緩和ケアの充実（第10条関係）

がん患者の身体的又は精神的な苦痛、社会生活上の不安等を軽減する医療等が充実するよう、必要な施策を実施しました。

(1) 緩和ケアを提供する医療機関（医療局）

市内で緩和ケア病床を有する病院は9病院、181床となっています。

市内の緩和ケア病床整備施設一覧

病 院 名	所在区	病床数
平和病院	鶴見区	16
済生会神奈川県病院	神奈川区	18
横浜市立みなと赤十字病院	中区	25
横浜市立市民病院	保土ヶ谷区	20
神奈川県立がんセンター	旭区	20
横浜南共済病院	金沢区	20
昭和大学横浜市北部病院	都筑区	25
国際親善総合病院	泉区	25
横浜甞生病院	瀬谷区	12
合 計		181

(2) 緩和ケアに関する市民啓発（医療局）

市民啓発の一環として、がんの疼痛緩和をテーマとした市民公開講座及び講演会を共催・後援し、緩和ケアの充実に向け、市民意識の向上を図りました。

- ・市民公開講座「シンポジウム 2017～がんになっても安心して暮らすために緩和ケアを理解しましょう～」(共催) (P16より再掲)
- ・第14回市民公開講座・講演会「がんの痛みはがまんしないで」(後援)
平成29年11月12日(日) 13:00～15:20 横浜シンポジア

(3) 市立病院及び市立大学での取組

市民病院では、緩和ケア病棟(20床)を運営するほか、疼痛緩和に関する相談を目的とした外来を設置するとともに、必要に応じて入院患者への緩和ケアチームによる診療を実施しました。

みなと赤十字病院では、緩和ケア病棟(25床)を運営し、緩和ケアチームが主治医等と協力して患者さんの症状緩和を中心とした治療や支援を実施しました。

また、両病院とも緩和ケア研修会を開催し、スタッフの基本的緩和ケア知識の取得に努めました。

横浜市立大学附属病院及び横浜市立大学附属市民総合医療センターにおいても、医療従事者向けに緩和ケア研修会として「疼痛緩和」「精神緩和」「身体緩和」「コミュニケーション技術」等をテーマにした講義及びワークショップを実施しました。また、緩和ケアチームの院内横断的な活動により、診療科を超えて緩和ケアを提供しました。

6 在宅医療の充実（第11条関係）（医療局）

がん患者が、在宅で療養できる体制の整備のため必要な施策を実施しました。

住み慣れた自宅等で安心して暮らしていくため、在宅医療と介護の連携推進に向け、横浜市医師会と協働し、在宅医療連携拠点の運営を行いました。（18区）

各区役所では、在宅におけるチーム医療を担う人材育成研修を開催しました。研修を通して、区内の医療・介護事業者が顔をあわせ、グループワーク等で意見を交換しあい、職種による考え方の違いを理解することや、研修を通じて得た人間関係により、日常業務でのコミュニケーションを円滑にし、医療と介護の連携を進めています。（18区）

7 医療従事者の育成及び確保（第12条関係）

がんに係る医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師、その他の医療従事者の育成及び確保を図るため、必要な施策を実施しました。

がん患者に対する診療体制の充実と医療の質の向上を目的に、専門看護師、認定看護師、認定薬剤師等の養成のための人材教育経費を負担する市内医療機関等に対して補助することで、医療機関においてがんに関する専門性の高い技術を持つ医療従事者の育成を支援しました（医療局）。

取得予定資格名	平成28年度	平成29年度
精神看護専門看護師	1人	1人
緩和ケア認定看護師	2人	5人
がん化学療法看護認定看護師	1人	1人
乳がん看護認定看護師	1人	—
がん放射線療法看護認定看護師	1人	—
がん薬物療法認定薬剤師	—	3人
外来がん治療認定薬剤師	3人	2人
計	9人	12人

横浜市立大学では、がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成を行いました。

文部科学省の推進する、多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランに全国で11件の取組が採択され、その1つが東京大学（主幹）・横浜市立大学・東邦大学・自治医科大学・北里大学・首都大学東京が合同で申請した「がん最適化医療を実現する医療人育成」プログラムです。

また、キャンサーボードのほか、6大学合同セミナーを遠隔同時中継により開催しました。さらに、MDアンダーソンがんセンターから講師を招き、医学国際化セミナー・がんプロ公開セミナーを同時開催しました。

8 情報の収集及び提供等（第13条関係）

市民の皆様が、がんに関する適切な情報を得られるよう、10月に「横浜市がん対策推進キャンペーン」として横浜市営地下鉄やJR根岸線など6路線での貸切広告列車や横浜駅での大型広告、市内4か所でのラベンダーライトアップを行いました。

また、各区民まつり等イベントでラベンダーリボンなどの啓発物品の配布や市立図書館での企画展示、各病院での情報発信等を行い、がんに関する正しい知識の啓発、がん検診への意識向上等を勧めました。

また、保健医療関係団体が行う市民のがんに対する理解を深める事業等に対して補助し、連携してがん対策についての広報を行いました（医療局）。



ラベンダーライトアップ



貸切広告列車

文化観光局では、世界肺癌学会の開催を支援したほか、MICEを活用した次世代育成事業として、横浜市で第55回日本癌治療学会学術集会を開催した学会主催者との共催で市内在住・在学の小・中学生を対象としたセミナーを開催しました。

- ・第18回世界肺癌学会 平成29年10月15日～18日 パシフィコ横浜
- ・「ジュニアセミナーin横浜」平成29年10月21日・22日 パシフィコ横浜

市民病院、みなと赤十字病院、横浜市立大学附属病院及び横浜市立大学附属市民総合医療センターでは、地域がん診療連携拠点病院として、がん相談支援センターで情報提供を行っています。また、国が定めた登録様式・定義に従い、院内がん登録を実施したほか、全国がん登録も行っています。

ラベンター色

ラベンダー色は、がん啓発のシンボルカラーです。

がんの種別ごとのシンボルカラー（乳がん：ピンク等）もありますが、「ラベンダー色」はがん全般についてのシンボルカラーとなっています。

(1) 市立図書館からの情報提供及び情報発信（教育委員会事務局）

医療や健康、がんの診断・治療・闘病、がん検診に関する企画展示を実施し、ブックリストやパンフレット、ちらしを配布しました。また、横浜市立大学と共催で大腸がんに関する講座も開催しました。

実施場所	取組内容	実施期間
中央図書館	市立大学市民医療講座「大腸がんで死なないために」	10月
	企画展示「健康づくり情報パネル展」	7月～8月
	企画展示「がんについて知る」	10月
都筑図書館	企画展示「10月は乳がん月間」	9～10月
栄図書館	企画展示 「皆で知ろう！自殺予防、がん検診、結核のポイント」	9月



情報提供の様子

左：中央図書館（市民医療講座） 右：都筑図書館（企画展示）

(2) 市立病院及び市立大学からの情報提供

市民病院、みなと赤十字病院、横浜市立大学附属病院及び横浜市立大学附属市民総合医療センターのがん相談支援センターや医療情報コーナー等で、がんを含む医療に関する図書や、国立がん研究センター発行のがんに関する冊子等による情報提供を行いました。

(3) 市立病院及び市立大学からの情報発信

ア 市民病院の取組

予防やがん検診受診のきっかけとして、市民公開講座を実施したほか、横浜国立大学において、学生や教職員を対象としたがん啓発講習会を実施しました。

・市民公開講座

「進化する肺がん治療」（平成30年2月 県民共済みらいホール）、「前立腺がんにも負けない」（平成30年3月 横浜情報文化センター）

・がん啓発講習会

「知っておきたい！子宮がん・乳がんのこと」（平成29年11月 横浜国立大学）

イ みなと赤十字病院の取組

がん検診受診と早期発見・早期治療の重要性に対する啓発活動のひとつとして、みなと市民セミナー「知っていますか肺がんのこと～もっと知りたい治療と予防～」を開催しました。

また、がん診療を行う横浜・川崎の10施設で連携して講演会、勉強会等を開催し、地域のがん診療機能の向上と情報発信に努めました。

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY

横浜市立市民病院
がん検診センター

知っておきたい！
子宮がん・乳がんのこと

【知っていますか？】

- 1 増えている？子宮がん＆乳がん
- 2 子宮がんには種類がある？
- 3 子宮頸がん検診が「がん」の予防につながる？
- 4 乳がんは自分で見つけることができる？

検診に携わる保健師がミニ講義を行います！

● 日時 ●
11月17日(金) 12:15～12:45
11:30～乳がん検診モデル体験も実施中

● 場所 ●
メディアホール

先着200名様に
参加特典を配布します！

この講座はがんに関する知識と理解をより深めていただくことを目的としています。
横浜国大生、教職員の方はどなたでもご自由に参加いただけます。また、女性だけでなく男性の方も、パートナーのためにも是非ご聴講ください。
皆さまのご参加をお待ちしています。

横浜国立大学保健管理センター

市民病院
啓発講習会（11月）

第14回 みなと市民セミナー
がん検診3800名

知っていますか肺がんのこと
～もっと知りたい治療と予防～

13:00～13:05
開会にあたり
院長 野田 尚徳

13:05～13:30
変わってきた肺がんの内科治療
呼吸器内科部長 河崎 勉

13:30～13:50
知っておこう肺がんの外科学治療
呼吸器外科部長 下山 武彦

14:00～14:20
やさしく話す放射線治療
放射線治療科部長 藤本 成博

14:20～14:40
がん予防
みんなでしなないと意味がない
がん検診センター長 伊藤 美由子

14:40～15:00
ご質問への回答など

13:50～14:00 12休養時間

日 平成30年3月21日 水・祝
会場 ワークシア横浜

主催 横浜国立大学市民啓発センター
協賛 神奈川県がん対策推進協議会、川崎市がん対策推進協議会、横浜市がん対策推進協議会、鎌倉市がん対策推進協議会

日本人男性の死因トップ
喫煙習慣のない女性の肺がんも増加

日本人のがんの部位別死亡原因トップである「肺がん」。
喫煙者が多く、患者さんはいっこうに減りません。病気を予防する、治療法を最新するなど、さまざまな事項において、病気に対する正確な知識を持つことが大切です。
インターネットなどの普及で情報が錯綜する中、患者も医療者も、できるだけ正確な情報をお伝えすることの重要性が高まっています。
病状について正確に「知る」ことで「癒える」、市民セミナーを通じて、その一助になることができれば幸いです。

- みなと市民病院 横浜大船町駅南口 徒歩5分
- 川崎市民病院 川崎駅 徒歩15分
- 横浜中央病院 横浜駅 徒歩15分
- 横浜赤十字病院 横浜駅 徒歩15分
- 横浜国立大学市民啓発センター 徒歩15分

ご質問にお答え
横浜国立みなと赤十字病院、みなと市民セミナー編
045-628-6816 (直通)

みなと赤十字病院
みなと市民セミナー（3月）

ウ 横浜市立大学の取組

エクステンション講座として、がんに関する市民向けの講座を開催しました。

- ・“皮膚がん”最新治療（6月）
- ・女性のがん～進行がんのリスクを減らすために～（7月）
- ・最新の肝臓病治療を知ろう（7月）
- ・がん転移抑制法～タンパク質分解酵素の抑制が突破口になり得るか～（8月）
- ・大腸癌で死なないために（10月）
- ・婦人科がんの最新治療（12月）
- ・今からできる！がん早期発見～人生100年時代を見据えて～（2月）
- ・切らずに治すがんの放射線治療（3月）
- ・がんゲノム医療最前線（3月）

また、各病院においても、がんに関する市民向け講座を開催しました。

- ・ C型肝炎講演会（3月、横浜市立大学附属病院）
- ・ 肝臓の診断：肝臓の内科的治療
（9月、横浜市立大学附属市民総合医療センター）
- ・ 肝臓に対する経血管的治療
（10月、横浜市立大学附属市民総合医療センター）
- ・ 肝臓に対する外科的手術（1月、横浜市立大学附属市民総合医療センター）

エ その他（医療局）

市内地域中核病院等で開催される市民公開講座について、広報よこはまや横浜市ホームページ、Facebook等での周知を行いました。

(4) 骨髄移植普及啓発事業（健康福祉局）

神奈川県骨髄移植を考える会及び神奈川県赤十字血液センターの協力の下、骨髄ドナー登録会等を実施しました。

- ・ 骨髄ドナー登録会 7回開催
（市庁舎3回、地下鉄立場駅前2回、栄区役所・北綱島小学校各1回）

(5) がんに関する国際協力（国際局・健康福祉局・医療局・医療局病院経営本部）

包括連携協定を締結している独立行政法人国際協力機構（JICA）が、平成27年より実施している「セルビア国『国家乳がん早期発見プログラム改善プロジェクト』」の受入研修に際し、横浜市立市民病院、横浜労災病院、横浜市立大学附属病院と連携し、横浜市における検診や治療について研修を実施しました。

受入期間・人数：平成29年6月…9人、平成30年2月…12人

(6) 情報の収集（医療局）

本市のがん対策について、今後の施策を検討する際の参考とするため、無作為に抽出された市民を対象に、内閣府が平成28年度に実施した「がん対策に関する世論調査」と同様の調査を行い、横浜市内におけるがん対策に関する市民の意識調査を実施しました。

9 がん研究の推進（第14条関係）

横浜市立大学におけるがん研究の支援（医療局）

横浜市立大学における先進的ながん治療に関する研究を支援するため、研究費及び研究を支援する人件費を補助しました。

新たな治療法を早期に保険診療として実施できるようにすることで、市民のがん治療の選択肢を広げるため、治療に係る医療材料費等を市立大学が負担し、研究を推進し、保険診療の適用に向けた流れを促進します。

《先進的ながん研究一覧》（症例のあったもの）

区分	No.	概要	診療科	件数
手術	1	胃癌に対するロボット支援型手術	一般外科	9
	2	腹腔鏡下広汎子宮全摘術	産婦人科	1
	3	直腸癌に対するロボット支援型手術	消化器・肝移植外科	18
	4	膀胱癌に対するロボット支援型手術	泌尿器科	3
	5	頭頸部悪性腫瘍に対するインドシアニングリーン（ICG）と磁性造影剤を用いたセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	歯科・口腔外科・矯正歯科	9
	6	生体活性化チタンを用いた顎骨欠損部位の骨再生・歯科インプラント治療	歯科・口腔外科・矯正歯科	5
	7	3Dプリンティング多孔性チタンを用いた顎骨再建治療	歯科・口腔外科・矯正歯科	1
薬物療法	8	一次治療不応である神経内分泌癌に対するテモゾロミド単独化学療法	臨床腫瘍科・乳腺外科	1
	9	切除不能膵・消化管神経内分泌腫瘍に対するカペシタビン、テモゾロミド併用化学療法（CAPTEM）の有用性、安全性に関する検討	臨床腫瘍科・乳腺外科	11
	10	放射線性下顎骨壊死に対する薬物療法	歯科・口腔外科・矯正歯科	11
	11	切除不能唾液腺腺様嚢胞癌に対するレンバチニブの臨床研究	耳鼻いんこう科	2
	12	プライマリヒト唾液腺癌オルガノイドを用いた新規薬効評価の構築と新規ターゲットの探索	耳鼻いんこう科	4
診断等	13	骨巨細胞腫に対するFDG-PET検査およびNaF-PET検査の有用性	整形外科	22
	14	Birt-Hogg-Dubé（BHD）症候群の遺伝子診断と診療	病理診断科	11

外部研究費の採択率を上げ、効率的に研究が進むように、研究者の支援を行う専門的知識・経験を持つリサーチアドミニストレータ（University Research Administrator／URA：大学における研究マネジメント人材）を配置しています。

【URAによる主ながん研究支援】

- ・研究費獲得に向けた研究計画書の作成支援セミナーの開催
- ・URAによるがん研究計画書の作成支援19件、うち国等の公募への採択等に結び付いたのは6件

10 平成 30 年度のがん対策関連の主な新規・拡充事業

今回の報告対象ではありませんが、平成 30 年度におけるがん対策関連の主な新規・拡充事業は次のとおりです。

1 がんの早期発見の推進（第 7 条関係）

受診勧奨通知または無料クーポン券対象者への再勧奨通知（拡充）

平成 29 年度：20 歳・25 歳・30 歳・35 歳の女性

40 歳・45 歳・50 歳・55 歳・60 歳の男女（ともに平成 29 年 4 月 1 日時点）

《送付対象者数》約 34 万 3 千人

平成 30 年度：20 歳・40 歳の女性（無料クーポン券送付者）

国民健康保険加入者のうち、21 歳から 39 歳の女性、40 歳の男性、41 歳から 69 歳の男女（ともに平成 30 年 4 月 1 日時点）

《送付対象予定者数》約 45 万 5 千人

2 がんに係る医療の充実（第 8 条関係）

乳がん対策（拡充）

乳がんは、家庭や職場で中心的な役割を担う世代のり患が多く、子育て、就労等の社会的な面のサポートや副作用によるアピアランス（外見）ケアやメンタルケアをしながらの治療が実施されることが望まれます。そのため、乳がん患者に対してのチーム医療により、診療のほか患者支援や診療所との連携を推進するがん診療連携拠点病院等のうち、4 病院を「横浜市乳がん連携病院」として指定し、その充実に努めます。

3 がん患者及びその家族等への支援（第 9 条関係）

小児がん患者等へのサポート（拡充）

小児がん連携病院に対する支援を継続するとともに、専門資格者を配置し小児がん患者等への心のサポートを行う体制の確保に対する支援を新たに実施します。

4 緩和ケアの充実（第 10 条関係）

緩和ケア推進に向けた体制構築のための検討会（新規）

がん患者の希望する場で、切れ目なく緩和ケアが提供されるよう、緩和ケア病棟のあり方や在宅での療養を含めた体制構築に向けた施策の検討を行います。

Ⅲ 各区局の実施状況

この資料は、がん対策について平成 29 年度各区局の取組の概要を取りまとめたものです。なお、決算については、監査委員の審査を経て、第 3 回市会定例会に提出します。

報告書中、予算額・決算額が空欄になっているものは、単独事業として実施していないもの、また、金額が入っている場合でも事業費の一部に関連の経費を含む場合もあります。

《 平成 29 年度 がん関連事業実績一覧 》

区・局名	番号	事業名
鶴見区	1	健康診査・検診受診等 啓発事業
	2	禁煙・分煙の推進
	3	世界禁煙デーにおける禁煙啓発
	4	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	5	きらり☆元気アップ事業 子育て世代の健康啓発(ヘルスアップ事業の一部)
神奈川区	6	がん検診・特定健康診査啓発
	7	禁煙・分煙の推進
	8	世界禁煙デー(禁煙週間)、九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
西区	9	がん検診啓発事業
	10	小学生向け喫煙防止教室(禁煙・分煙の推進)
	11	ハマのウォーキング(禁煙・分煙の推進)
	12	プレパパママ教室(禁煙・分煙の推進)
	13	健康づくり応援イベント(世界禁煙デー・禁煙週間)
	14	区民まつり(九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン)
中区	15	乳幼児健康診査、母子健康手帳交付時における禁煙啓発(禁煙・分煙の推進)
	16	生活衛生市民啓発講座(禁煙・分煙の推進)
	17	世界禁煙デーにおける禁煙啓発
	18	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	19	がん検診・特定健康診査啓発
南区	20	禁煙相談、南なんデーにおける禁煙啓発(禁煙・分煙の推進)
	21	世界禁煙デーにおける禁煙啓発、九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	22	がん検診・特定健康診査啓発
港南区	23	がん検診啓発事業
	24	若年層への喫煙防止啓発事業
	25	受動喫煙防止・禁煙啓発事業
	26	がん対策推進事業(がん講演会)
保土ヶ谷区	27	区内イベントでのがん検診受診啓発事業
	28	乳がん予防及び早期発見事業
	29	禁煙及び慢性閉塞性肺疾患(COPD)啓発事業
旭区	30	がん検診啓発事業
	31	禁煙・分煙の推進
	32	世界禁煙デー(禁煙週間)
	33	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	34	禁煙推進・啓発
	35	女性のための健康づくり事業
	36	健康フェア
	37	生活習慣改善相談(禁煙相談事業)
	38	生活習慣病予防講座
磯子区	39	喫煙防止教室(禁煙・分煙の推進)
	40	世界禁煙デーにおける禁煙支援
	41	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	42	がん検診・特定健康診査の啓発
	43	子育て中の母親への健康づくり事業

区・局名	番号	事業名
金沢区	44	各関連事業やイベント等における女性特有のがん検診の啓発
	45	禁煙・分煙の推進
	46	世界禁煙デー(禁煙週間)
	47	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	48	健康づくり月間事業
港北区	49	胃・大腸がん撲滅キャンペーン事業
	50	がん・特定健康診査 啓発事業
	51	ピンクリボンキャンペーン
	52	禁煙・分煙の推進
	53	世界禁煙デー事業
	54	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン駅前啓発
緑区	55	がん検診・特定健康診査啓発事業
	56	両親教室後の禁煙相談(禁煙・分煙の推進)
	57	肺がん検診時禁煙相談(禁煙・分煙の推進)
	58	世界禁煙デー(禁煙週間)
	59	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	60	思いやり、健康づくりの日(健康チェック及びがん予防の動機づけ支援)
	61	若年層の生活習慣病予防セミナー(がん検診啓発)
	62	保健活動推進員によるがん検診啓発
青葉区	63	区内学校への出前教室、パパの子育て教室(禁煙・分煙の推進)
	64	世界禁煙デーにおける禁煙支援
	65	がん検診・特定健康診査啓発
都筑区	66	センター事業でのがん検診・特定健康診査啓発事業
	67	肺がん検診・結核ハイリスク健診、乳幼児健康診査、母子健康手帳交付面接(禁煙・分煙の推進)
	68	禁煙支援薬局との連携(禁煙・分煙の推進)
	69	小中学校への保健教材貸出(禁煙・分煙の推進)
	70	世界禁煙デー啓発イベント、禁煙パネル展(世界禁煙デー・禁煙週間)
	71	区民まつり(九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン)
戸塚区	72	特定健康診査・がん検診啓発
	73	禁煙・分煙の推進
	74	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	75	世界禁煙デー(禁煙週間)
	76	とつか健康パワーアップ事業
	77	がんについて考えよう ～とつかがん対策事業～
栄区	78	がん検診・特定健康診査・健康診査 啓発
	79	慢性閉塞性肺疾患(COPD)体験・肺がん検診
	80	両親教室
	81	乳幼児健康診査・母子健康手帳交付
	82	世界禁煙デー
	83	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
泉区	84	がん検診啓発事業
	85	生活習慣改善啓発事業
	86	禁煙・分煙の推進
	87	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン

区・局名	番号	事業名
瀬谷区	88	がん検診の受診啓発
	89	世界禁煙デー(禁煙週間)
	90	禁煙・分煙の推進
	91	九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン
	92	健康せや推進事業
総務局	93	職員を対象とした相談・啓発事業
	94	職員定期健康診断(生活習慣病総合健診)
国際局	95	JICA「セルビア国乳がん早期発見プログラム改善プロジェクト」への協力
文化観光局	96	クラシック・ヨコハマ推進事業
	97	MICE次世代育成事業
	98	「第18回世界肺癌学会」の誘致・開催支援(MICE誘致・開催支援事業)
経済局	99	国際戦略総合特区推進事業(うち、がん関連の取組)
	100	がん患者専用労働相談
こども青少年局	101	横浜市妊婦健康診査事業
	102	南部児童相談所安全衛生委員会の中で「がん検診講習会」を開催
健康福祉局	103	「健診へ行こう！」リーフレット作成及び配布
	104	特定健康診査・がん検診実施機関一覧表の作成及び配布
	105	小児慢性特定疾病医療給付事業
	106	定期予防接種事業
	107	がん検診事業
	108	健康横浜21推進事業(禁煙)
	109	骨髄移植普及及び啓発事業等
医療局	110	総合的ながん対策推進事業(がんに係る医療の充実)
	111	総合的ながん対策推進事業(がんに関する子どもへのサポート支援)
	112	総合的ながん対策推進事業(仕事と治療の両立支援)
	113	総合的ながん対策推進事業(ピアサポート推進のための支援)
	114	総合的ながん対策推進事業(ピアランス(外見)に関するケアへの支援)
	115	総合的ながん対策推進事業(若年者の在宅療養に関する支援)
	116	総合的ながん対策推進事業(NPO法人が行うがんに関する活動の支援)
	117	総合的ながん対策推進事業(緩和ケアに関する市民啓発)
	118	総合的ながん対策推進事業(医療従事者の育成及び確保)
	119	総合的ながん対策推進事業(情報提供等)
	120	総合的ながん対策推進事業(情報の収集)
	121	総合的ながん対策推進事業(がん研究の推進)
医療局 病院経営本部 (市立市民病院)	122	がん検診
	123	集学的治療・高度医療の充実
	124	がん地域連携クリティカルパスの運用
	125	がん患者相談支援事業
	126	緩和ケアの充実
	127	院内がん登録
	128	がんに関する治験・研究の推進
	129	がん検診・がん診療に関する情報発信

区・局名	番号	事業名
医療局 病院経営本部 (市立みなと赤 十字病院)	130	がん検診
	131	集学的治療・高度医療の充実
	132	がん地域連携クリティカルパスの運用
	133	がん患者相談支援事業
	134	緩和ケアの充実
	135	医療従事者の育成確保
	136	院内がん登録
	137	がんに関する治験・研究の推進
	138	がん検診・がん診療に関する情報発信
環境創造局	139	がん相談支援センターのPR
水道局	140	「はまっ子どうし The Water」ピンクリボンボトルで乳がん検診の大切さをPR
	141	ピンクリボンかながわとのコラボレーション
教育委員会 事務局	142	教職員定期健康診断(生活習慣病健康診断)
	143	がん教育
	144	中央図書館 医療講座の実施
	145	中央図書館 医療・健康関連企画展示の実施
横浜市立大学	146	地域図書館における啓発展示
	147	がん医療に関する医療機器の更新・導入
	148	がん相談支援センターの運営
	149	がん患者及びその家族等への支援
	150	緩和ケアの充実
	151	医療従事者の育成及び確保
	152	がん登録の推進
153	がんに関する市民向け講座	

鶴見区

1 健康診査・検診受診等 啓発事業

【事業内容】

保健活動推進員と協力し、イベント来場者へのちらし配布、乳がん自己触診法体験等を通じた健康診査・検診の受診勧奨のほか、運動・適正飲酒の啓発を実施しました。

広報よこはまを活用した受診の啓発も行いました。

また、保険年金課と協力し、受診を勧奨するちらしを作成し、町内会で回覧を行うとともに、区役所窓口に配架しました。

両親教室では、アルコールによる胎児への影響について講話を行いました。

さらに、鶴見区薬剤師会と連携し、特定健康診査及びがん検診の受診勧奨を行いました。

学校での健康教育等を通じた受診等啓発にも取り組みました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

区配予算

H29 予算額 196 千円	H29 決算額 124 千円
-------------------	-------------------

【30 年度以降の対応】

【実績】

イベント・地区活動等 22 回、延べ参加者数 1,873 人
(両親教室の参加人数は含まない)

2 禁煙・分煙の推進

【事業内容】

禁煙相談では、問診や動機付け面接による個別相談を行いました。

肺がん検診の問診時には、喫煙者全員に対して慢性閉塞性肺疾患(COPD)や喫煙の害について説明しました。

歯と口の健康週間では、喫煙者のうち希望者にスパイロメーターによる肺年齢測定と問診を実施しました。また、禁煙マップを使用し、禁煙外来、禁煙支援薬局を紹介しました。

両親教室では、妊娠中や産後のたばこの身体への影響、受動喫煙、禁煙のメリット、美容面への影響、胎児・乳児への影響、禁煙のために利用できる社会資源(禁煙外来、禁煙支援薬局、区の禁煙相談)について、保健師が説明しました。

ポイ捨て・受動喫煙防止キャンペーンでは、駅前では通行者に対し、ポイ捨て・受動喫煙防止啓発グッズを配布しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

区配予算

H29 予算額 65 千円	H29 決算額 97 千円
------------------	------------------

【30 年度以降の対応】

【実績】

- ・禁煙相談: 1 回、参加者数 1 人
- ・肺がん検診: 6 回、延べ参加者数 165 人
- ・歯と口の健康週間: 6 月 4 日、参加者数 128 人
- ・両親教室: 12 回、延べ参加者数 516 人
- ・ポイ捨て・受動喫煙防止キャンペーン: 5 回、延べ参加者数 4,600 人

3 世界禁煙デーにおける禁煙啓発

【事業内容】

庁舎内にキャンペーンポスターを掲出しました。
また、乳幼児健康診査の会場にポスターを掲示することにより、待ち時間を活用した啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

3回、延べ参加者数 195 人
(世界禁煙デー期間中の乳幼児健康診査受診者数)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

4 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン

【事業内容】

庁舎内にキャンペーンポスター、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の啓発ポスターを掲出しました。
また、イベント等で受動喫煙防止の啓発リーフレットの配布・配架を行いました。ポイ捨て・受動喫煙防止キャンペーンでは啓発グッズを配布しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

32 回、延べ参加者数 6,036 人
※九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン:1,939 人、健康づくり月間:297 人、ポイ捨て受動喫煙防止キャンペーン:3,800 人

5 きらり☆元気アップ事業 子育て世代の健康啓発(ヘルスアップ事業の一部)

【事業内容】

子育て世代の健康啓発として、こども家庭支援課と連携して、既存の子育てイベント、育児教室等、乳幼児の保護者が集まる場所を活用し、乳幼児の保護者を対象に、乳がん自己接触法体験を実施するとともに、健康診査・検診の受診の勧奨にも取り組みました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
1,752 千円	1,633 千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

3 回、延べ参加者数 194 人

【30 年度以降の対応】

がん早期発見のための啓発、検診受診の勧奨を継続していきます。

神奈川区

6 がん検診・特定健康診査啓発

【事業内容】

肺がん検診時にちらし配布、パネル展示を行ったほか、区民まつり、健康づくりキャンペーンでは、ちらしや啓発物品の配布、乳がん触診モデル体験を実施しました。

受診勧奨の啓発には、広報よこはま区版、ホームページ、庁内モニター一等を活用しました。

区民ホールでは、パネル展、ピンクリボンキャンペーンを実施しました。

【実績】

30回、延べ参加者数 1,572人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
48千円	48千円

【30年度以降の対応】

7 禁煙・分煙の推進

【事業内容】

神大フェスタ、地域イベント、両親教室で喫煙・受動喫煙防止の啓発を行いました。

【実績】

神大フェスタ 128人

地域イベント 13回 延べ参加者数 1,162人

両親教室 12回、延べ参加者数 246人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
48千円	48千円

【30年度以降の対応】

8 世界禁煙デー(禁煙週間)、九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン

【事業内容】

小中学校、保育所、町内会、地域ケアプラザ等、関係機関へ禁煙ポスターの掲示を依頼し、併せて庁舎内でのポスターとパネルの掲示、ちらしの配布を行いました。

九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーンでは、健康イベント会場等にて受動喫煙防止の普及啓発を実施しました。

【実績】

禁煙デーポスター掲示: 143か所、419枚

禁煙デーパネル等の掲示期間: 平成29年5月29日～6月2日

九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン: 9～11月

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
11千円	11千円

【30年度以降の対応】

西区

9 がん検診啓発事業

【事業内容】

プレパママ教室で、がん検診に関する講話と啓発資料の配布を行いました。

また、イベント(健康づくり応援イベント、区民まつり、ハマのウォーキングフェスティバル、中央図書館パネル展等)で、パネルやポスター、乳がん触診モデル及びマンモグラフィ検診車を展示するほか、啓発資料の配布、区内の検診実施医療機関の情報提供、健康チェック(呼気中一酸化炭素モニター)等の啓発を行いました。

さらに、がん検診受診個別勧奨通知発送の時期(10月)に合わせた啓発として、区内を主に走行するバスの車内モニター(デジタルサイネージ)を利用しました。

【実績】

- ・区庁舎で実施する肺がん、胃がん検診受診者数:127人
- ・健康情報ポータルサイト閲覧数:461ビュー
- ・健康チェック参加者数(呼気中一酸化炭素モニター):160人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
218千円	218千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
300千円	297千円

【30年度以降の対応】

今後も引き続き事業を実施します。また、受診率の向上につながるよう広く周知し、検診を受ける必要性を伝えていきます。

10 小学生向け喫煙防止教室(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

小学6年生を対象に、喫煙防止の授業(DVDの視聴とデモンストレーション)を行いました。

【実績】

1回、参加者数 91人(小学校1校)

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

11 ハマのウォーキング(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

地域振興課・保健活動推進員と協力して、ウォーキングのゴール会場で呼気検査実施(呼気中一酸化炭素モニター)とたばこの害の啓発を行いました。

【実績】

1回、参加者数 952人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
8千円	8千円

【30年度以降の対応】

12 プレパパママ教室(禁煙・分煙の推進)**【事業内容】**

妊婦とその家族を対象に、両親教室で禁煙・受動喫煙防止の啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【実績】

10回、延べ参加者数 121 人

区配予算

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【30年度以降の対応】

13 健康づくり応援イベント(世界禁煙デー・禁煙週間)**【事業内容】**

区歯科医師会と協力して行っている子どものフッ化物塗布事業において、保護者を対象に、受動喫煙防止啓発ポスターやパネルの展示、受動喫煙チェック(呼気中一酸化炭素モニター)を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【実績】

1回、参加者数 199 人

区配予算

H29 予算額 8千円	H29 決算額 8千円
----------------	----------------

【30年度以降の対応】

14 区民まつり(九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン)**【事業内容】**

区薬剤師会と協力し、区民まつりでスパイロメーター(肺機能測定)やポスター掲示を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【実績】

1回、参加者数 600 人

区配予算

H29 予算額 5千円	H29 決算額 5千円
----------------	----------------

【30年度以降の対応】

中区

15 乳幼児健康診査、母子健康手帳交付時における禁煙啓発(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

乳幼児健康診査の会場や母子健康手帳の交付時にちらし配布とポスター掲示を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

・乳幼児健康診査(年 72 回、延べ参加者数約 5,000 人)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
10 千円	10 千円

【30 年度以降の対応】

16 生活衛生市民啓発講座(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

保健師が生活衛生協議会会員に対し、たばこの害や受動喫煙について講話を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

1回、参加者数 63 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

17 世界禁煙デーにおける禁煙啓発

【事業内容】

区役所でポスターを掲示し、リーフレットを配架しました。併せて区役所での禁煙相談も案内しました。

また、広報よこはま区版に慢性閉塞性肺疾患(COPD)の記事を掲載しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

1回(5月 29 日～6月9日)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
10 千円	10 千円

【30 年度以降の対応】

18 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン**【事業内容】**

区庁舎掲示板及び区内地域ケアプラザにポスターを掲示しました。
 また、保健師と保健活動推進員が健康チェックコーナーでちらし配布とポスター掲示を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

1回、参加者数 75 人

【30 年度以降の対応】

19 がん検診・特定健康診査啓発**【事業内容】**

広報よこはま区版に記事を掲載しました。
 また、4～5月に保健師が保健活動推進員へ普及啓発を行いました。
 さらに、区役所内でのがん検診、地域における健康講座、元気フェスタ、中区ウオーク&健康フェスティバル、国際交流ラウンジ「健康コーナー」、生活習慣改善講座の場においても啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
10 千円	10 千円

【実績】

11 回、延べ参加者数 1,565 人

【30 年度以降の対応】

南区

20 禁煙相談、南なんデーにおける禁煙啓発(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

保健師等による個別相談を実施しました。併せてスパイロメーターや呼気中一酸化炭素モニター等を使用した健康測定、禁煙外来の紹介等を行いました。

また、区民イベント「南なんデー」における健康測定会の一環として、肺機能測定を行いました。保健師等による個別相談とリーフレット配布も行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
5千円	0千円

【実績】

- ・禁煙相談：7回、延べ参加者数7人
- ・南なんデーにおける禁煙啓発：1回、参加者数 293 人

【30年度以降の対応】

21 世界禁煙デーにおける禁煙啓発、九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン

【事業内容】

世界禁煙デーにおける禁煙啓発として、区庁舎内のパネル展示、リーフレット配布を実施しました。併せて保健師等による呼気中一酸化炭素モニター等を使用した健康測定等を行いました。

また、九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーンでは、区庁舎内へのポスター掲示、リーフレット配布を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

- ・世界禁煙デーにおける禁煙啓発：3回、延べ参加者数 420 人
- ・九都県市受動喫煙防止対策キャンペーン：9～11 月

【30年度以降の対応】

22 がん検診・特定健康診査啓発

【事業内容】

地域子育て支援拠点等で女性特有のがんについて啓発を行ったほか、保健活動推進員の活動でがん啓発に取り組みました。

また、働き世代の健康応援事業でのがん検診啓発のほか、区民イベント「南なんデー」や乳幼児健康診査でのちらし配布や受診勧奨、自己触診法体験などを行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
80 千円	135 千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
52 千円	30 千円

【実績】

- ・子育て支援拠点等(2回、延べ 40 人)
- ・保健活動推進員健康正副会長会(32 人)
- ・保健活動推進員健康測定会(24 回、延べ 1,422 人)
- ・赤ちゃん学級(7回、延べ 122 人)
- ・食品衛生講習会等(8回、延べ 374 人)
- ・健康福祉まつり「南なんデー」(10 月、293 人)
- ・乳幼児健康診査(延べ 700 人)
- ・広報よこはま区版にがん検診について掲載(3回)

【30年度以降の対応】

がん検診・特定健康診査ともに引き続き、健康応援事業や健康福祉まつりなど各種事業を通じて積極的に啓発していきます。

港南区

23 がん検診啓発事業

【事業内容】

3歳児健康診査の会場や、区内で開催している健康づくりイベントで乳がん触診モデルの体験ブースを設置し、乳がんの自己触診法の説明とがん検診の受診勧奨を行いました。他イベントや教室でも他課、他職種と連携してがん検診の受診啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
94 千円	62 千円

【実績】

乳がんの触診モデル体験および検診の受診勧奨
 <内訳>

- ・3歳児健康診査:36回、延べ722人
- ・むし歯予防デーイベント:6月1日、79人
- ・職域出前講座:6社、延べ183人
- ・こうなん健康チェックイベント:2回、延べ216人
- ・親子ウォーキング教室:2回、延べ53人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
232 千円	251 千円

【30年度以降の対応】

女性の肺がん検診の受診率が低いことから、働き・子育て世代が受診しやすいように、検診時の保育実施やインターネットでの予約受付を実施します。

24 若年層への喫煙防止啓発事業

【事業内容】

区内小学校を訪問し、未成年向けの出前講話を行いました。たばこの害についてのDVD鑑賞や、ロールプレイを通してたばこの害を学んでもらい、将来たばこを吸わない選択ができるように伝えていくことでがんの予防にもつながる支援を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
70 千円	58 千円

【実績】

未成年者向けの出前講座(小学校3校、延べ202人)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
27 千円	19 千円

【30年度以降の対応】

引き続き、出前講話を行います。
 また、出前講座を実施しない小学校での喫煙防止教育の充実を図るため、区内全小学6年生向け喫煙防止教育教材(リーフレット)を作成します。

25 受動喫煙防止・禁煙啓発事業

【事業内容】

関係団体と連携し、世界禁煙デーに合わせてたばこの害や禁煙についてのパネル展示を行いました。また、区内健康づくりイベント等で呼気中一酸化炭素モニター測定を実施しました。

両親教室では、受動喫煙の害についての講話やリーフレット配布を行いました。

喫煙、受動喫煙を防止し将来にわたるがんの予防に取り組みました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
9 千円	8 千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
12 千円	12 千円

【実績】

呼気中一酸化炭素モニター測定やリーフレット配布等による啓発(14回、延べ658人)

<内訳>

- ・両親教室:12回、延べ162人
- ・世界禁煙デーイベント:126人
- ・ひまわり健康フェア:370人

【30年度以降の対応】

引き続き、関係団体等と連携し、たばこの害や受動喫煙防止の普及啓発をします。

26 がん対策推進事業(がん講演会)**【事業内容】**

関係団体と連携し、がん予防と生活習慣の関連や生活習慣病予防と寝たきりの関係等について、病院及びクリニックの医師による講演を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
45 千円	30 千円

【実績】

2月3日、参加者数 170 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

引き続き、関係団体と連携し、がんの知識の普及とがん検診啓発を行います。

保土ヶ谷区

27 区内イベントでのがん検診受診啓発事業

【事業内容】

保健活動推進員や区内保育所、小学校等の関係機関と連携し、健康づくりイベントや健康講座でがん検診の啓発を行いました。

【実績】

24回、延べ参加者数 1,534人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
35千円	8千円

【30年度以降の対応】

28 乳がん予防及び早期発見事業

【事業内容】

保健活動推進員と連携し、3歳児健康診査および地域赤ちゃん教室の会場で乳がん触診モデルを使い、自己触診法の啓発を行いました。

【実績】

52回、延べ参加者数 1,951人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
84千円	119千円

【30年度以降の対応】

29 禁煙及び慢性閉塞性肺疾患(COPD)啓発事業

【事業内容】

区内でのまつりや大学のまつり、肺がん検診の会場で喫煙者を中心に呼気中一酸化炭素モニター測定や、禁煙相談を実施しました。がん発症のリスクが高い対象者へ働きかけを行い、今後のがん発症を予防できるよう取り組みました。

また、将来たばこを吸わない人が増えることでがんの発症者が減るように、子ども向けの啓発にも力を入れました。

【実績】

17回、延べ参加者数 1,174人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
96千円	36千円

【30年度以降の対応】

旭区

30 がん検診啓発事業

【事業内容】

乳幼児健康診査や両親教室、児童扶養手当申請の待ち時間等を利用したリーフレット配布での情報提供を行いました。

その他、禁煙キャンペーンや禁煙相談等でのがん検診受診勧奨、肺がん検診ハイリスク健康診査時(年1回)における短時間相談・指導、健康フェア来場者への啓発、女性の健康づくり事業時の乳がん触診モデル体験、保健活動推進員による地域イベントでの検診啓発を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
95 千円	95 千円

【実績】

128回、延べ参加者数 9,252人

【30年度以降の対応】

31 禁煙・分煙の推進

【事業内容】

両親教室において保健師・看護師による呼気中一酸化炭素モニター測定、個別禁煙指導を行いました。

こんにちは赤ちゃん訪問では、リーフレットを配布しました。

また、禁煙外来・禁煙薬局等関係機関との情報共有を行うほか、区内公立小中学校校長会・養護教諭連絡会では、禁煙学習用リーフレット・教材を紹介し、随時配布や貸し出しを行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
225 千円	192 千円

【実績】

9回、延べ参加者数 198人

【30年度以降の対応】

32 世界禁煙デー(禁煙週間)

【事業内容】

世界禁煙デーで展示コーナーを設置し、呼気中一酸化炭素測定を行ったほか、地区イベントで啓発物品を配布しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

3回、延べ参加者数 1,600人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
65 千円	65 千円

【30年度以降の対応】

33 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン

【事業内容】

区役所や禁煙キャンペーンイベントで受動喫煙防止パネルやポスターを掲示したほか、保健活動推進員の地区活動向けに一酸化炭素濃度測定器・肺年齢測定器の貸し出しを行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

2回、延べ参加者数 396 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

34 禁煙推進・啓発

【事業内容】

それぞれの地域で行われる行事に合わせ、保健活動推進員が禁煙推進・受動喫煙防止を啓発しました。その際、がん検診の重要性も合わせて啓発しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
224 千円	222 千円

【実績】

21 回、15 地区、延べ 3,580 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

全地区へ拡充します。併せて、二俣川喫煙禁止エリア指定に伴う啓発も実施します。

35 女性のための健康づくり事業

【事業内容】

子育て中の女性をターゲットにした健康づくり(体力測定)事業実施時に、乳がん触診モデルを活用した自己触診法の指導や子宮がん検診の啓発、がん啓発のリーフレットの配布を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

3回、延べ参加者数 236 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
70 千円	70 千円

【30 年度以降の対応】

36 健康フェア

【事業内容】

医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健活動推進員、食生活等改善推進員（ヘルスマイト）と協働し、区民まつりと同時開催で、健康フェアを実施しました。特に肺がん予防の一環として、禁煙推進や受動喫煙防止のためにちらしの配架を行い、必要に応じて医師会や歯科医師会、薬剤師会、保健師の相談につなげました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
30 千円	30 千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
180 千円	180 千円

【実績】

健康フェア(10月15日、3,167人)

【30年度以降の対応】

30年度については、前年度と同水準で継続する予定です。

37 生活習慣改善相談(禁煙相談事業)

【事業内容】

保健師が個別相談でアドバイス等を行いました。希望者には呼気中一酸化炭素モニターやスパイロメーター、肺年齢測定器により、たばこが体に与える影響を測定し、禁煙の動機づけを行いました。

また、相談後も一定期間連絡をとり、禁煙が継続していけるよう支援しました。

さらに、禁煙外来実施医療機関や禁煙支援薬局への情報提供、リーフレットの配布を行いました。

肺がん検診時には、喫煙者への簡易的な短時間相談を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
14 千円	4 千円

【30年度以降の対応】

【実績】

- ・個別相談(2回、延べ2人)
- ・肺がん検診時の短時間相談(6回、延べ 223 人)、第二種健康診断(72人)
- ・禁煙薬局へのちらし配布(99 か所、1,980 部)

38 生活習慣病予防講座

【事業内容】

地域からの要望に応え、専門職が地域に出向き、健康講座を実施しました。その講座の中で、受診行動がとれるよう、がん検診の重要性を伝えました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
117 千円	117 千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

40回、延べ2,580人

【30年度以降の対応】

30年度については、前年度と同水準で継続する予定です。

磯子区

39 喫煙防止教室(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

区内小学校を対象に、外部講師によるたばこの害についての講話や、保健活動推進員と連携した喫煙防止に関するロールプレイ等を行い、がん予防の啓発を行いました。また、4か月児健康診査に参加した母親を対象に、受動喫煙のちらしを配布し、検診受診の勧奨を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
180 千円	175 千円

【実績】

- ・喫煙防止教室(14校、延べ905人)
- ・4か月児健康診査での啓発(ちらし1,317枚)

【30年度以降の対応】

40 世界禁煙デーにおける禁煙支援

【事業内容】

世界禁煙デーパネル展において、たばこの害や禁煙相談を周知するリーフレットを配布し、がん予防の啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

5月、リーフレット199枚

【30年度以降の対応】

41 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン

【事業内容】

がん検診・特定健康診査の啓発に合わせ、九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーンとして、たばこの害や禁煙相談を周知するリーフレットを配布し、がん予防の啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

10月、リーフレット94枚

【30年度以降の対応】

42 がん検診・特定健康診査の啓発

【事業内容】

がん検診・特定健康診査啓発パネル展を開催し、がん予防・早期発見のための啓発、がん検診受診の勧奨に取り組みました。また、3歳児健康診査や離乳食教室に参加した母親を対象に、女性のがん検診のちらしを配布し、検診受診の勧奨を行いました。その他、各種イベント及び生活保護受給者を対象に、健康診査やがん検診の受診啓発を通年で行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
130 千円	95 千円

【30年度以降の対応】

【実績】

- ・がん検診・特定健診啓発パネル展(10月、ちらし 541枚)
- ・3歳児健康診査、離乳食教室での啓発(ちらし 1,581枚)
- ・生活保護受給者で健康診査・がん検診受診者(12人)

43 子育て中の母親への健康づくり事業

【事業内容】

保健師及び保健活動推進員が地域の子育てサロン等に出向き、運動習慣の定着の働きかけ(講話や測定)や、女性のがん検診の受診啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
14 千円	14 千円

【30年度以降の対応】

【実績】

- ・子育てサロン等での健康チェック(5会場、延べ 28人)

金沢区

44 各関連事業やイベント等における女性特有のがん検診の啓発

【事業内容】

各教室やイベント等でがん検診のリーフレット、女性特有のがんに関するリーフレット等を配布しました。また、開催時に乳がん触診モデルを設置し、自己触診法体験を実施しました。

職域や結核の接触者健診等で関わりのある企業には、がん検診のリーフレットを配布しました。

保健活動推進員向けには、乳がん触診モデルの活用研修を実施しました。

また、衛生研究所の施設公開イベントで啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
20 千円	20 千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

157 回、延べ参加者数 8,636 人

金沢区魅力いっぱい健康ウォーキング:参加者数 774 人

45 禁煙・分煙の推進

【事業内容】

両親学級やイベント等で、妊産婦に対し受動喫煙防止啓発グッズとちらしを配布しました。

区民まつりでは、慢性閉塞性肺疾患(COPD)や受動喫煙について、ちらしの配布やポスターの掲示を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
65 千円	65 千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

14 回、延べ参加者数 1,394 人

46 世界禁煙デー(禁煙週間)

【事業内容】

関東学院大学と協働した世界禁煙デーイベントで、学生及び教職員に対し、禁煙相談、呼気中一酸化炭素濃度測定、受動喫煙防止啓発を実施しました。

5月に実施された乳幼児健康診査および保健活動推進員によるパネル展では、受動喫煙防止啓発グッズとちらしの配布を行いました。

また、広報よこはま区版で禁煙や受動喫煙の害についての記事を掲載しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
3千円	6千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

8回、延べ参加者数 588 人

47 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン**【事業内容】**

区民まつりで慢性閉塞性肺疾患(COPD)や受動喫煙について、ちらしの配布やポスターの掲示を行いました。

庁舎内にはポスターの掲出を行い、受動喫煙の害について啓発しました。

両親教室の妊産婦に対しては、受動喫煙防止啓発グッズとちらしの配布を行いました。

また、禁煙相談を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

【実績】

16回、延べ参加者数 623人

48 健康づくり月間事業**【事業内容】**

区民まつりにおいて、がん予防啓発ブースを出展し、がん予防・早期発見のための啓発、がん検診の受診勧奨、乳がん触診モデルを活用した啓発、パネル展示、パンフレットの配布等、積極的に啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
907千円	981千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

啓発ポスター、ちらしを活用し、引き続き事業を継続していきます。

【実績】

区民まつり(いきいきフェスタ):参加者数 500人

港北区

49 胃・大腸がん撲滅キャンペーン事業

【事業内容】

「大腸がんクイズラリー」と「胃がん検診」のパネルを展示し、クイズ参加者には啓発物品を配布し、横浜市のがん検診の制度を紹介しました。区役所の展示スペースでは、がん検診受診勧奨パネルを掲示しました。

【実績】

2回、延べ参加者数 785 人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
55 千円	55 千円

【30 年度以降の対応】

50 がん・特定健康診査 啓発事業

【事業内容】

各種イベント(地区ウォーキング測定会、ほくほくフェスタ等)、各種講習会(食品衛生責任者講習会、生活衛生協議会講習会、保健活動推進員委嘱式、食生活等改善推進員セミナー)において、ちらし「健診へ行こう」を配布しました。来庁者向けにはがん検診に関する啓発ちらしを別途作成したほか、離乳食手帳、ウォーキング手帳にがん検診についての情報を追加掲載して配布しました。

乳幼児健康診査の会場に、乳がん・子宮がんに関するパネルを設置しました。また、庁舎内にがんに関するパネルを設置しました。

広報よこはま区版では、7月、9月、10月、2月の4回シリーズで啓発の記事を掲載しました。

【実績】

各種イベント、講習会等 52 回、延べ参加者数 7,825 人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
113 千円	101 千円

【30 年度以降の対応】

51 ピンクリボンキャンペーン

【事業内容】

乳幼児健康診査の会場で乳がん・子宮がん啓発パネルの掲示を行いました(常設)。また、区役所展示スペースでもピンクリボンキャンペーンや乳がんに関するパネル掲示を行いました。

来庁者に向けては、がん検診制度のちらしを配布し、受診勧奨しました。

【実績】

- ・ちらし配布 200 部
- ・広報よこはま区版に乳がん自己触診法とがん検診の記事掲載(10 月)

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
21 千円	17 千円

【30 年度以降の対応】

52 禁煙・分煙の推進

【事業内容】

両親教室において、禁煙・受動喫煙防止啓発、禁煙指導、喫煙・受動喫煙に関する講話や呼気中一酸化炭素モニターを行ったほか、リーフレットや禁煙外来 MAP、禁煙相談ちらし等を配布し、禁煙希望者に対しては個別支援を実施しました。

母子健康手帳交付時には、喫煙妊婦等への禁煙相談、リーフレット等配布を行いました。

地域に向けた取組としては、子ども向けクイズを実施し、そこでリーフレットやティッシュ等を配布しました。保健活動推進員が「禁煙おすすめ隊」となり、地域での受動喫煙防止啓発を行うにあたり、その活動の支援・人材育成のための研修を開催しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
56 千円	56 千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

- ・両親教室啓発:12 回、延べ参加者数 840 人
- ・母子健康手帳交付時啓発:延べ 500 人
- ・子ども向けクイズ:1 回、参加者数 40 人
- ・禁煙おすすめ隊:4 回 延べ参加者数 80 人
- ・高校生向けリーフレット配布:延べ 400 人

53 世界禁煙デー事業

【事業内容】

駅前スペースで、着ぐるみや禁煙相談ちらし、各種リーフレット(慢性閉塞性肺疾患(COPD)、禁煙・受動喫煙防止啓発)、ポケットティッシュを活用した啓発を行い、希望者に呼気中一酸化炭素モニターを行いました。

区役所内でも、同様の呼気中一酸化炭素モニターを実施し、啓発パネル及びポスターの掲示を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
5 千円	4 千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

- 駅前啓発:延べ参加者数 1,000 人
- 区役所内測定会:延べ参加者数 22 人
- 区役所内掲示:5 月～6 月

54 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン駅前啓発

【事業内容】

着ぐるみを活用し、禁煙相談ちらし、各種リーフレット(慢性閉塞性肺疾患(COPD)、禁煙・受動喫煙防止啓発)を、禁煙啓発について印刷した絆創膏とともに配布しました。

また、庁舎内に啓発ポスターを掲示し、区内の各地区センター及び各地域ケアプラザには、ポスターの掲示依頼を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

- 駅前啓発:延べ参加者数 1,000 人
- ポスター掲示:11 月～3 月

緑区

55 がん検診・特定健康診査啓発事業

【事業内容】

近隣地域で開催される胃がん検診をPRするために、がん検診制度に関するちらしを作成し、自治会・町内会の回覧で周知しました。

また、区役所主催で開催されるイベント、健康関連講座や講演会等でもがん検診ガイド・特定健診啓発ちらしを配布しました。

区民まつり、区役所主催研修等では、ちらしやのぼり旗で、受診奨励・PRを行いました。

【実績】

胃がん検診(13回、延べ228人)、肺がん検診(7回、延べ287人)、食育月間講演会(6月、183人)、健康づくり月間講演会(10月、435人)、区民まつり(10月、128人)、ミドリンウォーキングフェスタ(1月、151人)、「健診へ行こうトイレットペーパー」配布(1月、224人)

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
58千円	64千円

【30年度以降の対応】

56 両親教室後の禁煙相談(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

妊産婦、乳幼児の受動喫煙を防止することを目的に、両親教室参加者のうち、喫煙者(妊婦または妊婦のパートナー)に対し禁煙相談を実施しました。

- ・たばこの害等に関するミニ講座の実施
- ・スパイロメーターによる肺機能測定の実施

【実績】

11回、延べ参加者数25人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
12千円	8千円

【30年度以降の対応】

57 肺がん検診時禁煙相談(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

喫煙者の禁煙意欲を促進し、家庭内での受動喫煙を予防することを目的に、肺がん検診に合わせて禁煙相談を行いました。

- ・呼気中一酸化炭素モニターの実施
 - ・パワーポイント視聴(ニコチン依存のしくみ)
 - ・禁煙セルフヘルプガイド等資料を使用した個別禁煙相談
 - ・禁煙を決意した方への支援
- (1週間後、1か月後、3か月後までの禁煙相談)

【実績】

7回、延べ参加者数15人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
12千円	10千円

【30年度以降の対応】

58 世界禁煙デー(禁煙週間)**【事業内容】**

世界禁煙デーに合わせて、区役所 1 階イベントスペースでたばこの害などのパネル展示を実施し、禁煙分煙の促進を図りました。

また、食育月間、禁煙週間に合わせてパネル展示を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

5月29日～6月9日

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
35 千円	25 千円

【30 年度以降の対応】

59 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン**【事業内容】**

9月から11月にかけて、緑区役所1階健診フロアと福祉保健課窓口にてポスター掲示を行い、区民に対して受動喫煙防止の促進を図りました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

9月1日～11月30日

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

60 思いやり、健康づくりの日(健康チェック及びがん予防の動機づけ支援)**【事業内容】**

概ね月1回、区役所1階イベントスペースで区民向けに健康チェックを行う「思いやり、健康づくりの日」を開催し、がんや生活習慣病の予防に対する動機づけを行いました。併せて「検診へ行こう」リーフレット配布による啓発を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
387 千円	622 千円

【実績】

健康チェック9回、延べ参加者数 2,039 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

引き続き実施します。

61 若年層の生活習慣病予防セミナー(がん検診啓発)**【事業内容】**

39歳以下の若年層や小学校PTAに向けた生活習慣病予防のための講座を実施し、生活習慣改善指導とともに、乳がん触診モデル体験や「健診へ行こう」リーフレットを使った健康診査・がん検診啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
194 千円	140 千円

【実績】

- ・乳がん触診モデル体験3回、延べ参加者数 45 人
- ・健康チェック4回、延べ参加者数 90 人
- ・リーフレット配布、90 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

地区会場を増やし、引き続き実施します。

62 保健活動推進員によるがん検診啓発**【事業内容】**

保健活動推進員が区民まつりや各地区の事業等で地域住民を対象に健康チェックを実施し、生活習慣改善やがん予防の意識づけを行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

- ・健康チェック 45 回、延べ参加者数 2,368 人
- ・呼気中一酸化炭素モニター体験 18 回、延べ参加者数 939 人
- ・加速度脈波計 31 回、延べ参加者数 1,524 人
- ・乳がん触診モデル体験4回、延べ参加者数 93 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

青葉区

63 区内学校への出前教室、パパの子育て教室(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

区内中学校等の学生に対し、たばこの害や受動喫煙について講話を行いました(出前教室)。

また、パパの子育て教室にて、妊娠中の女性とその夫に対し、たばこの害や受動喫煙について講話を行い、併せて肺年齢測定、呼気中一酸化炭素モニターを行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
21 千円	19 千円

【実績】

- ・区内学校への出前教室:7回、延べ参加者数 1,633 人
- ・パパの子育て教室:6回、延べ参加者数 289 人

【30 年度以降の対応】

64 世界禁煙デーにおける禁煙支援

【事業内容】

区民ホールで、喫煙による健康被害や受動喫煙防止等についてパネル展示を行い、パンフレットの配布や呼気中一酸化炭素モニター測定を実施しました。また、関連情報について広報よこはま区版への掲載を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

パネル展示(6月1日~9日)、延べ 75 人

【30 年度以降の対応】

65 がん検診・特定健康診査啓発

【事業内容】

転入者、乳幼児健診受診者及び健康フェスティバルの来場者へのがん検診ちらし・グッズ配布による啓発や、食品衛生講習会、環境衛生講習会での周知を実施(6月・2月)しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
41 千円	41 千円

【実績】

20 回、延べ参加者数 6,000 人

【30 年度以降の対応】

都筑区

66	センター事業でのがん検診・特定健康診査啓発事業								
<p>【事業内容】 3歳児健康診査、食育フェア、乳がん検診推進月間において、区民への啓発、乳がん触診モデル体験、がん検診の受診方法の啓発を実施しました。3歳児健康診査では全来場者に集団指導を行いました。 乳がん検診推進月間には、パネル展示、職員の名札へのバナー掲示・ピンクリボン着用を行い、その模様を画像で区民周知するなど、啓発を実施しました。また、マンモグラフィー車による乳がん検診を実施した際、就業者の健康づくりとして区役所で働く市民も対象としました。 保険年金課が実施する、待ち時間を利用した画像による啓発の場に、リーフレットを配架しました。 保健活動推進員に対し、がん検診啓発方法を指導し、地域の活動の中で積極的な周知が行えるよう活動支援を行いました。 生活習慣病予防パネル展では、がん検診・特定健診受診率向上のためパネル展示やちらしを配布しました。</p> <p>【実績】 134回、延べ参加者数 4,479人</p>	<p>個性ある区づくり推進費</p> <table border="1"> <tr> <td>H29 予算額</td> <td>H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">537 千円</td> <td style="text-align: center;">337 千円</td> </tr> </table> <p>区配予算</p> <table border="1"> <tr> <td>H29 予算額</td> <td>H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">45 千円</td> <td style="text-align: center;">45 千円</td> </tr> </table> <p>【30年度以降の対応】 ・がん早期発見のための啓発、検診受診のための勧奨を継続します。 ・3歳児健康診査での乳がん啓発を継続します。 ・大腸がん啓発用トイレトペーパーを定期的に区役所内のトイレに設置し、検診受診のための勧奨をします。</p>	H29 予算額	H29 決算額	537 千円	337 千円	H29 予算額	H29 決算額	45 千円	45 千円
H29 予算額	H29 決算額								
537 千円	337 千円								
H29 予算額	H29 決算額								
45 千円	45 千円								

67	肺がん検診・結核ハイリスク健診、乳幼児健康診査、母子健康手帳交付面接(禁煙・分煙の推進)								
<p>【事業内容】 肺がん検診・結核ハイリスク健診を実施し、検診受診者のうち喫煙者に対し、問診時に短時間の動機づけ禁煙指導及びちらしの配布を行いました。 乳幼児健康診査(4か月、1歳6か月)時には、会場にポスターを掲示し、喫煙している保護者にリーフレットの配布を行いました。 母子健康手帳交付時の面接でもリーフレットを配布しました。喫煙者や受動喫煙者には禁煙相談を案内しました。</p> <p>【実績】 ・肺がん検診・結核ハイリスク検診:9回、延べ参加者数 53人 ・乳幼児健康診査:72回、延べ参加者数 5,816人 ・母子健康手帳交付面接:2,292人</p>	<p>個性ある区づくり推進費</p> <table border="1"> <tr> <td>H29 予算額</td> <td>H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> </tr> </table> <p>区配予算</p> <table border="1"> <tr> <td>H29 予算額</td> <td>H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> </tr> </table> <p>【30年度以降の対応】</p>	H29 予算額	H29 決算額	千円	千円	H29 予算額	H29 決算額	千円	千円
H29 予算額	H29 決算額								
千円	千円								
H29 予算額	H29 決算額								
千円	千円								

68	禁煙支援薬局との連携(禁煙・分煙の推進)								
<p>【事業内容】 禁煙支援薬局に対し、禁煙相談に関するヒアリング・情報共有を実施しました。</p> <p>【実績】 1回</p>	<p>個性ある区づくり推進費</p> <table border="1"> <tr> <td>H29 予算額</td> <td>H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> </tr> </table> <p>区配予算</p> <table border="1"> <tr> <td>H29 予算額</td> <td>H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2千円</td> <td style="text-align: center;">2千円</td> </tr> </table> <p>【30年度以降の対応】</p>	H29 予算額	H29 決算額	千円	千円	H29 予算額	H29 決算額	2千円	2千円
H29 予算額	H29 決算額								
千円	千円								
H29 予算額	H29 決算額								
2千円	2千円								

69 小中学校への保健教材貸出(禁煙・分煙の推進)

【事業内容】

養護教諭部会で貸出教材(スモーキングガイ、タール模型、気管支模型、肺模型、啓発DVD、パネル)を周知しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
43 千円	39 千円

【実績】

養護教諭部会での啓発:3回、延べ参加者数 29 人
貸出回数:小学校 1 回

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

養護教諭部会での啓発、保健教材の貸し出しを継続します。

70 世界禁煙デー啓発イベント、禁煙パネル展(世界禁煙デー・禁煙週間)

【事業内容】

保健活動推進員とともに、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の啓発として、COPD 疑似体験、COPD クイズ、パネル啓発を行いました。

肺年齢・血管年齢測定を実施し、がん検診や特定健康診査の受診啓発をしました。

また、当該イベントに合わせて、禁煙に関する啓発物やパネルを展示し、リーフレットを配架しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
28 千円	15 千円

【実績】

・世界禁煙デー啓発イベント:1回、参加者数 160 人
禁煙啓発関連のパンフレット・グッズ配布(716 部)
COPD 疑似体験、COPD クイズ、健康チェック(BC チェッカー・ハイチェッカー)の参加者数 160 人

【30 年度以降の対応】

71 区民まつり(九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン)

【事業内容】

区民まつりにおいて、保健活動推進員による血管年齢測定を行うとともに、がん検診・特定健康診査のちらしを配布しました。

また、保健活動推進員の健康チェックのブースに並んだ区民に対し、待ち時間を利用して慢性閉塞性肺疾患(COPD)クイズを実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
32 千円	43 千円

【実績】

1回、参加者数 477 人

【30 年度以降の対応】

戸塚区

72 特定健康診査・がん検診啓発

【事業内容】

食品衛生講習会、衛生講習会で特定健康診査・がん検診の受診啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

4回、延べ参加者数 1,014 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
4千円	4千円

【30 年度以降の対応】

73 禁煙・分煙の推進

【事業内容】

区内の小学6年生に対し、たばこの害や受動喫煙について講話を行いました。

両親教室では、受動喫煙防止、禁煙支援についての啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
10 千円	10 千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

21 回、延べ参加者数 3,365 人

74 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン

【事業内容】

両親教室で、たばこの煙による健康被害、胎児や乳幼児への影響、禁煙方法や相談窓口の紹介について講演を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

12 回、延べ参加者数 2,660 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
1千円	1千円

【30 年度以降の対応】

75 世界禁煙デー(禁煙週間)

【事業内容】

広報よこはま区版で、慢性閉塞性肺疾患(COPD)を含む喫煙の健康影響についての知識の普及啓発と禁煙相談のPRを行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

76 とつか健康パワーアップ事業

【事業内容】

区役所の健康づくり事業のパートナーである保健活動推進員、食生活等改善推進員の活動を支援することで、地域でのがん検診啓発、生活習慣病予防などを行いました。また、健康まつりにおいて来場者に向けて、がんに関する各種啓発を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
1,068 千円	1,330 千円

【実績】

- ・保健活動推進員:地区におけるがん検診啓発、乳がん自己触診法の啓発等(18地区)
- ・食生活等改善推進員:親子食育講座(食事を通じたがんを含めた生活習慣病の予防を若年層から啓発)(7回開催)
- ・健康まつり:マンモグラフィー車の展示をはじめ、各種啓発(11月3日、延べ来場者数約8,000人)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

保健活動推進員、食生活等改善推進員の活動支援を継続して実施します。また、健康まつりにおいて、マンモグラフィー車の展示など、乳がん検診の受診勧奨を強化して実施します。

77 がんについて考えよう ～とつかがん対策事業～

【事業内容】

がん検診受診率向上を大きなテーマに、消化器外科を専門とする医師による生活習慣とがんの関係や、がんの知識等についての講演を実施しました。講演当日はパネル展も同時開催し、がん検診受診率向上やがんの予防・治療に関する啓発を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
700 千円	630 千円

【実績】

とつかがん対策講演会「がんについて考えよう～自分のために、家族のために～」(12月15日、238人)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

子宮がん検診は、戸塚区では横浜市を受診率を下回っていることから、子宮がん検診を対象とした講演を実施します。また、パネル展開催による啓発活動も継続して行います。

栄区

78	がん検診・特定健康診査・健康診査 啓発								
<p>【事業内容】 3歳児健康診査等で、乳がん触診モデルを活用したセルフチェック(自己触診)等の啓発や、リーフレット等を活用した乳がん・子宮がん検診と特定健康診査の受診啓発を実施しました。 また、栄区役所で実施するがん検診の日程についてのPRチラシを作成しました。 栄図書館や区役所では、パネル展示等によるがん検診・特定健康診査の啓発を実施しました。 10月のピンクリボン月間を中心に、乳がん検診啓発の大型ステッカーを作成し、駅等へ掲示しました。 自治会・町内会向けには、「けんしん啓発チラシ」を作成し、回覧等で周知しました。 また、保健活動推進員及び食生活等改善推進員が地区活動等において、「健診へ行こう!」を活用した特定健康診査・がん検診の受診啓発を実施しました。</p> <p>【実績】 図書館パネル展:9月1日～9月29日 区役所本館パネル展:9月11日～9月21日、10月2日～10月10日 大船駅ピンクリボン大型ステッカー掲示期間:9月29日～平成31年5月1日</p>	<p style="text-align: center;">個性ある区づくり推進費</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">H29 予算額</td> <td style="text-align: center;">H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">670 千円</td> <td style="text-align: center;">499 千円</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">区配予算</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">H29 予算額</td> <td style="text-align: center;">H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">101 千円</td> <td style="text-align: center;">70 千円</td> </tr> </table> <p>【30年度以降の対応】 3歳児健康診査、パネル展、ちらし作成・配布や地区活動について引き続き啓発を実施します。 また、大型ステッカーによる啓発は、がん検診・特定健康診査の啓発講演会による啓発に変更します。</p>	H29 予算額	H29 決算額	670 千円	499 千円	H29 予算額	H29 決算額	101 千円	70 千円
H29 予算額	H29 決算額								
670 千円	499 千円								
H29 予算額	H29 決算額								
101 千円	70 千円								

79	慢性閉塞性肺疾患(COPD)体験・肺がん検診								
<p>【事業内容】 小中学生を対象に、疑似的に慢性閉塞性肺疾患(COPD)状態になり苦しさを体感するプログラムを実施しました。 また、肺がん検診の問診時に喫煙者に対して短時間支援を行いました。</p> <p>【実績】 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)体験:延べ参加者数 142人 ・肺がん検診:11回、延べ参加人数 435人</p>	<p style="text-align: center;">個性ある区づくり推進費</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">H29 予算額</td> <td style="text-align: center;">H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">区配予算</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">H29 予算額</td> <td style="text-align: center;">H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> </tr> </table> <p>【30年度以降の対応】</p>	H29 予算額	H29 決算額	千円	千円	H29 予算額	H29 決算額	千円	千円
H29 予算額	H29 決算額								
千円	千円								
H29 予算額	H29 決算額								
千円	千円								

80	両親教室								
<p>【事業内容】 両親教室で保健師がたばこの害と受動喫煙の防止について講話を行い、喫煙者の呼気中一酸化炭素濃度を測定しました。</p> <p>【実績】 3回、延べ参加者数 248人</p>	<p style="text-align: center;">個性ある区づくり推進費</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">H29 予算額</td> <td style="text-align: center;">H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">145 千円</td> <td style="text-align: center;">137 千円</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">区配予算</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">H29 予算額</td> <td style="text-align: center;">H29 決算額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> </tr> </table> <p>【30年度以降の対応】 事業を継続し、若い世代への啓発活動を実施します。</p>	H29 予算額	H29 決算額	145 千円	137 千円	H29 予算額	H29 決算額	千円	千円
H29 予算額	H29 決算額								
145 千円	137 千円								
H29 予算額	H29 決算額								
千円	千円								

81 乳幼児健康診査・母子健康手帳交付**【事業内容】**

乳幼児健康診査対象児(3歳)の保護者に乳がん・子宮頸がん検診の受診啓発ちらしを配布し、母子健康手帳交付対象者に禁煙普及啓発のちらしを配布しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【実績】

- ・乳幼児健診: 延べ受診者数 843 人
- ・母子健康手帳交付: 延べ交付件数 847 人

区配予算

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【30年度以降の対応】

82 世界禁煙デー**【事業内容】**

たばこに関するパネル展示やリーフレット配架を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【実績】

区役所本館パネル展: 5月30日～6月6日

区配予算

H29 予算額 20千円	H29 決算額 15千円
-----------------	-----------------

【30年度以降の対応】

83 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン**【事業内容】**

受動喫煙防止ポスターの掲示を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【実績】

区民まつり(11月11日): 415人、区役所新館掲示(通年)

区配予算

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【30年度以降の対応】

泉区

84 がん検診啓発事業

【事業内容】

3歳児健康診査に来所した保護者に対し、乳がん自己触診法体験及び乳がん・子宮がん検診の啓発を行うとともに、食生活改善や禁煙等の生活習慣改善相談を実施しました。また、区民まつりなどのイベントで、がん予防やがん検診受診の啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
313 千円	236 千円

【実績】

- ・乳がん自己触診法体験(24回、延べ参加者数 1,146人)
- ・がん検診受診啓発リーフレットの配布(52回、延べ 3,646人)
- ・泉区民ふれあいまつり(11月3日、リーフレット等配布 400人)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
78 千円	78 千円

【30年度以降の対応】

地域のイベントや区民まつりにおいて働き・子育て世代から高齢者までを対象とした各種がん検診・特定健康診査の啓発を継続します。乳幼児健康診査時の乳がん・子宮がん検診・特定健康診査の啓発も同様に継続します。

85 生活習慣改善啓発事業

【事業内容】

世界禁煙デー、食育月間事業、歯と口の健康週間事業と連携したイベントの中で、喫煙・受動喫煙の害及び禁煙の効果などのパネル展示やリーフレット配布による啓発を実施しました。また、イベントの中で肺年齢測定を行い、禁煙の必要性についての考えるきっかけづくりを行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
379 千円	414 千円

【実績】

- ・みんなの健康アップ！フェスティバル(6月1日、来場者 200人、肺年齢測定 20人)
- ・地域福祉保健計画推進イベント(2月21日、来場者 270人)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
5 千円	5 千円

【30年度以降の対応】

生活習慣改善を目的とした健康づくりイベント等において、がん予防やがん検診等の受診勧奨を進めていきます。

86 禁煙・分煙の推進

【事業内容】

区内小学校での喫煙防止教室及び区内高等学校への喫煙防止のリーフレットの配布を実施しました。

区役所で開催したイベントでのパネル展示、地域の健康測定会や体操教室等でのリーフレットの配布、及び両親教室での啓発を実施しました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

- ・小学校での喫煙予防教室(2校、延べ参加者数 234人)
- ・高校生への喫煙予防リーフレット配布(4校、延べ 1,120人)

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
170 千円	170 千円

【30年度以降の対応】

87 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン**【事業内容】**

区役所内にポスターを掲示しました。各種イベントでは、喫煙の害、禁煙の効果、受動喫煙、慢性閉塞性肺疾患(COPD)等についての啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【実績】

- ・九都県市受動喫煙防止ポスター掲示(9~11月)
- ・健康づくり講座、区民まつり等で啓発(9~11月)

区配予算

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【30年度以降の対応】

瀬谷区

88 がん検診の受診啓発

【事業内容】

からだまるごと健康フェアなど区民が多く集まる機会を捉え、がんに関するパンフレット配布、パネル展示を実施しました。また、乳幼児健康診査に来所した保護者に向け、乳がん自己触診法体験と、乳がん及び子宮がん検診の受診勧奨を行いました。

区民からの要望時には、がん予防等について出前講座を行いました。区内の医療機関、薬局へがん検診受診勧奨のちらしの配架を依頼しました。

【実績】

- ・乳幼児健康診査における乳がん自己触診法体験(24回、延べ438人)
- ・肺がん検診でのがん検診継続受診勧奨(8回、延べ251人)
- ・がんに関するパネル展示、がん予防・早期発見のための啓発、検診受診の勧奨(1,255人)
- ・がん予防啓発出前講座(1回、5人)
- ・がん検診受診勧奨ちらし配架依頼(66医療機関・660部、36薬局・360部)

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
30千円	30千円

【30年度以降の対応】

89 世界禁煙デー(禁煙週間)

【事業内容】

喫煙・受動喫煙防止のパネルを展示し、禁煙情報コーナーにてパンフレット等を配布しました。

【実績】

- ・パネル展示期間(5月26日～6月5日)にちらし・啓発ティッシュ配布、延べ250人
- ・広報よこはま区版5月号にコラムで、禁煙デー・禁煙週間を周知(50,000部)

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
3千円	3千円

【30年度以降の対応】

90 禁煙・分煙の推進

【事業内容】

両親教室において、喫煙・受動喫煙の害についての講話を行い、希望者に呼気中一酸化炭素濃度測定を実施しました。

肺がん検診においても、希望者に呼気中一酸化炭素濃度測定を実施し、併せて禁煙相談を行いました。

乳幼児健康診査においては、希望する保護者に呼気中一酸化炭素濃度測定を実施し、併せて啓発物品の配布、禁煙情報の提供を行いました。

【実績】

43回、延べ参加者数 810人

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

91 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン

【事業内容】

禁煙情報コーナーの設置、ポスターの掲示 パンフレットの配布を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

- ・九都県市受動喫煙防止キャンペーンポスター掲示(9月)
- ・パンフレット配布 100 人

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
3千円	3千円

【30 年度以降の対応】

92 健康せや推進事業

【事業内容】

瀬谷区からだまると健康フェアなどの各種イベント時にパネル展示・パンフレット配布・啓発資料等配布を行いました。また、区役所各事業では、区民が多く集まる機会を捉えて、がん予防・早期発見のための啓発、検診受診勧奨に取り組みました。特定健康診査・がん検診結果持参者には個別アドバイスをを行い、外部委託による骨密度測定を実施しました。また、子ども家庭支援課と連携して、乳幼児健康診査の機会にも、乳がん・子宮がん等の啓発を行いました。

個性ある区づくり推進費

H29 予算額	H29 決算額
228 千円	238 千円

区配予算

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

- ・瀬谷区からだまると健康フェア(6月4日、来場者 5,200 人)(パネル展示、パンフレット・啓発ティッシュ配布など)
- ・特定健康診査受診勧奨とあわせてがん検診受診勧奨案内を発送(20,216 通)
- ・がん予防啓発出前講座(1回、5人)
- ・乳幼児健康診査及び両親教室参加者へのがん予防啓発(555 人)
- ・広報よこはま区版9月号にがん検診受診勧奨記事を掲載
- ・がん征圧月間での啓発・パネル展開催(9月 20 日～27 日)、啓発ティッシュ配布、延べ 300 人
- ・特定健診・がん検診結果持参者の骨密度測定(2回、延べ 17 人)
- ・大腸がん講演会の開催(11 月 17 日、55 人)
- ・がん検診受診結果持参者限定用トートバッグ配布 (約 100 人)
- ・3歳児健康診査問診票案内発送時に横浜市がん検診受診勧奨ちらしを同封(950 部)

がん早期発見のための啓発、がん検診受診勧奨を継続して実施していきます。

総務局

93 職員を対象とした相談・啓発事業

【事業内容】

- ・がん啓発研修を開催しました。(水道局との共催事業)
- ・喫煙対策として、次のことを実施しました。
 - ① 健康診断の事後指導
 - ② 禁煙相談会
 - ③ 世界禁煙デーに合わせた庁内放送での啓発
 - ④ イン트라ネットや各種研修等の機会を活用した情報提供

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

がんを含む生活習慣病対策の取組として、実施予定です。

【実績】

- ・乳がん啓発研修会(10月27日、参加者95人)
(内訳:市長部局80人、水道局9人、交通局6人)
- ・禁煙相談会(4回)

94 職員定期健康診断(生活習慣病総合健診)

【事業内容】

本市職員を対象とする定期健康診断のうち、40歳以上の一定年齢に該当する職員を対象に実施する「生活習慣病総合健診」において、希望者を対象に胃がん及び大腸がんに係る検査を実施しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

同内容で事業を継続します。

【実績】

実施内容:胃がん及び大腸がんに係る検査
 検査内容:胃部エックス線検査(間接撮影)、便潜血反応検査
 対象年齢:40、42、44、46、48、50、52、54、56、58、59、61、63歳
 受診者数:胃部エックス線検査(間接撮影) 4,575人
 便潜血反応検査 5,923人

国際局

95 JICA「セルビア国乳がん早期発見プログラム改善プロジェクト」への協力

【事業内容】

包括連携協定を締結している独立行政法人国際協力機構（JICA）が平成27年より実施している「セルビア国『国家乳がん早期発見プログラム改善プロジェクト』」の実施に協力しました。

このプロジェクトは、セルビア共和国で課題となっている乳がんの早期発見や、がん治療に必要な人材育成を実現するため、JICAが同国政府とともに実施したものです。

横浜市におけるがん検診や治療の取組を紹介し、同国政府による政策立案の参考とするため、健康福祉局、医療局及び横浜市立大学と連携して受入研修などを行いました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

JICA のプロジェクト終了に伴い、今年度以降の実施はありません。

【実績】

JICAからの要請により、セルビア共和国の医療関係者からなる研修員を受け入れ、健康福祉局、医療局、横浜市立大学、市内医療機関の協力により講義・視察等を実施しました。

・6月、9人

・2月、12人

文化観光局

96 クラシック・ヨコハマ推進事業

【事業内容】

全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜の開催に合わせて実施している音楽イベント「クラシック・ヨコハマ」の一環として、毎日新聞社を主催とする、小児がん征圧キャンペーン「生きる」コンサートを実施しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

- ・生きる～2018 New Year 若い命を支えるコンサート
(1月14日、来場者数約1,700人)

【30年度以降の対応】

引き続き、連携して実施していく予定です。

97 MICE次世代育成事業

【事業内容】

第55回日本癌治療学会学術集会在本市で開催されたことから、次世代育成事業として日本癌治療学会と共催し、がんとがん治療に興味を持ってもらい、がんをめぐるより良い社会環境の創生につなげるきっかけとすることを目的として、市内在住・在学の小・中学生を対象とした手術体験セミナーを開催しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
400 千円	400 千円

【実績】

- ・ジュニアセミナーin横浜(10月21・22日、延べ参加者数58人)

【30年度以降の対応】

今後、がん関連の会議が開催される際に、実施に向けて検討していく予定です。

98 「第18回世界肺癌学会」の誘致・開催支援(MICE誘致・開催支援事業)

【事業内容】

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議を中心に誘致及び開催支援を行っており、平成25年度に横浜開催が決定した「第18回世界肺癌学会」について開催を支援しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
10,000 千円	10,000 千円

第18回世界肺癌学会は、世界各国から肺癌診療に関わる医師や研究者が一堂に集まり、国内で開催される国際会議としては最大級のものであります。

【実績】

- ・会期 10月15日～18日(4日間)
- ・延べ参加者数 6,764人(うち、海外参加者数 5,151人)、82か国(日本を含む)

【30年度以降の対応】

今後も経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議を中心に誘致及び開催支援を行ってまいります。

経済局

99 国際戦略総合特区推進事業(うち、がん関連の取組)

【事業内容】

「革新的な医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出」を目指し、「LIP. 横浜」で支援する研究開発プロジェクト等において、総合特区の支援策獲得に向けた支援や、本市独自の助成などによる支援を行いました。

このうち、がん対策関係の取組としては、継続的に支援をしているバイオベンチャーによる新規抗がん剤開発の第 I 相臨床試験が平成 28 年度に完了し、平成 29 年度は国内外においてパートナーとなる製薬会社の探索を進めました。また、横浜国立大学と企業が開発を進めてきたがんリスク評価法の有効性評価のための研究に対し、研究費を助成しました。

【実績】

- ・臨床試験(第 I 相)の完了を受けてのパートナー探索
- ・リスク評価法の有効性評価研究に対する研究費を助成(1件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
159,015 千円	107,513 千円

【30 年度以降の対応】

引き続き、がん対策に資する研究開発も含め、市内企業等のライフサイエンス関連の取組について、横浜ライフイノベーションプラットフォーム(「LIP. 横浜」)のネットワークや特区制度を活用し、支援します。

100 がん患者専用労働相談

【事業内容】

がんを治療している方や、治療後も就労に関して不安を抱えている方への支援として、「横浜しごと支援センター」において、引き続きがん患者のための労働相談を実施しました。また、企業の人事・労務担当者向けにセミナーを実施し、仕事と治療の両立を支援しました。

- ① 特定社会保険労務士による労働相談を実施
- ② 企業の人事・労務担当者向けセミナーを実施
- ③ 事業周知のためにチラシを作成、配布

【実績】

- ・横浜しごと支援センター内でのがん患者労働相談
(毎月第4金曜日、延べ 17 人)
- ・労働実務セミナー「がん患者の仕事と治療の両立支援について～企業が両立のためにできること～」の実施(11 月 28 日、参加者 26 人)
- ・相談窓口の周知チラシ配布
配布先: 区役所、行政サービスコーナー、図書館、
横浜しごと支援センター、市内がん診療連携拠点病院等、
市内ハローワーク

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
344 千円	262 千円

【30 年度以降の対応】

今後も事業を継続し、働く人の仕事と治療の両立を支援していきます。

こども青少年局

101 横浜市妊婦健康診査事業

【事業内容】

妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図るため、妊婦健康診査に必要な経費を助成することにより、安心して妊娠、出産ができる体制を確保しました。

妊婦健康診査は、横浜市医師会及び市外医療機関に委託しています。妊娠の届出をした妊婦に対して、14 回分の妊婦健康診査費用補助券を交付し、受診を促しました。(補助券:4,700 円×11 回、7,000 円×1回、12,000 円×2回 合計 82,700 円)

また、「子宮頸がん検診(細胞診)」は妊婦健康診査の検査項目となっており、指定医療機関で利用できる当該検診の無料クーポン券を母子健康手帳の交付時に配布しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
2,408,757 千円	2,385,963 千円

【30 年度以降の対応】

今後も妊婦健康診査費用の検査項目として、「子宮頸がん検診(細胞診)」を実施するとともに、引き続き母子健康手帳の交付時に当該検診の無料クーポン券を配布していきます。

【実績】

- ・29 年度妊娠届出者数(妊婦健康診査費用補助券交付者数) 30,950 人
- ・妊婦健康診査費用補助券延べ受診者数 347,850 人
- ・妊婦の子宮頸がん検診クーポン券利用者数 20,856 人

102 南部児童相談所安全衛生委員会の中で「がん検診講習会」を開催

【事業内容】

市民病院がんセンター職員を講師に招き、出前講座を実施しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
円	千円

【30 年度以降の対応】

【実績】

参加者数 13 人(南部児童相談所の職員)

健康福祉局

103 「健診へ行こう！」リーフレット作成及び配布

【事業内容】

各区の保健活動推進員が、特定健康診査・特定保健指導、横浜市健康診査及びがん検診制度や利用方法等を地域における健康づくり活動等で啓発する目的で、リーフレットを作成しました。

【実績】

37,000部作成し、各区保険年金課及び福祉保健課へ配布

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
542 千円	312 千円

【30年度以降の対応】

特定健康診査及びがん検診の受診率向上のため、引き続き取り組んでいきます。

104 特定健康診査・がん検診実施機関一覧表の作成及び配布

【事業内容】

5月下旬の特定健康診査受診券の一斉交付において、特定健康診査だけでなく、がん検診も受診できる実施機関一覧表を作成・封入し、対象者へ送付しました。

【実績】

29年度送付対象者数 延べ約55万人

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
6,771 千円	6,712 千円

【30年度以降の対応】

特定健康診査及びがん検診の受診率向上のため、引き続き取り組んでいきます。

105 小児慢性特定疾病医療給付事業

【事業内容】

児童福祉法に基づいた小児慢性疾病のうち、小児がん、慢性腎炎など特定疾病の治療の確立と普及を図り、併せて患者家族の負担軽減にも資するため、医療費の自己負担の一部を補助するとともに福祉サービスを行いました。

対象疾病は、14疾患群 722疾病。このうち小児がんに分類する悪性新生物は、91疾病です。

【実績】

悪性新生物の認定者数 643人

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
765,860 千円	846,903 千円

【30年度以降の対応】

今後も事業を継続していきます。

106 定期予防接種事業

【事業内容】

子宮頸がん予防ワクチンを定期接種として接種希望者に接種しました。
B型肝炎予防ワクチンを定期予防接種として接種希望者に接種しました。

【実績】

- ・子宮頸がん予防ワクチンの定期接種(241件、4月1日～3月31日)
- ・B型肝炎ワクチンの定期接種(85,378件、4月1日～3月31日)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
745,238 千円	698,124 千円

【30年度以降の対応】

平成25年6月14日の厚生労働省の勧告に基づき、子宮頸がん予防ワクチンの接種を積極的にはお勧めしていません。

接種後に症状が生じた方に対する相談窓口を継続していきます。

107 がん検診事業

【事業内容】

がんの早期発見・早期治療を促進するため、実施医療機関及び区福祉保健センター等でがん検診を実施しました。

受診率向上に向けて、個別勧奨通知送付後に受診勧奨通知または無料クーポン券が送付された特定年齢(20・25・30・35 歳女性、40・45・50・55・60 歳男女)の方への再勧奨通知による受診勧奨やピンクリボンと連携してイベントに参加するなど関係団体等民間の力を活用し、広く市民に向けがん検診の早期発見の重要性を周知しました。

精密検査結果等の把握を行い、検診精度管理の維持・向上を図りました。

妊婦の方は、子宮頸がんのり患率が高まる年齢の方と重なることから、母子健康手帳の交付に合わせて無料クーポン券を交付し子宮頸がん予防策を実施しました。

平成 28 年度から正式事業化した内視鏡検診については、継続的に実施医療機関の拡充に向けて取り組みました。

【実績】

- ・がん検診受診者数(胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺 534,203 人)
- ・個別通知等の送付(約 195 万人)
- ・再勧奨通知の送付(約 35 万人)
- ・内視鏡検診実施医療機関 161 か所(平成 28 年度 125 か所)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
4,436,266 千円	3,923,776 千円

【30 年度以降の対応】

検診事業と精度管理を医師会に委託し、実施から精度管理まで一体的に運営することで事業効果の向上に向けて取り組んでいきます。

108 健康横浜21推進事業(禁煙)

【事業内容】

生活習慣の改善を通じたがん予防

小・中・高校生、大学生など未成年者への喫煙防止教育、喫煙をやめたい人がやめられるようなサポート体制の構築、「よこはま健康応援団」の推進などの受動喫煙を受けない環境づくり等の喫煙対策を進めました。

各種イベントや市庁舎等で、パネルの展示・パンフレットの配布、呼気中一酸化炭素濃度、肺年齢の測定を行い、がんの予防啓発を行いました。

ライフステージに合わせた禁煙・受動喫煙防止啓発リーフレット、区別の禁煙外来マップを作成し、配布しました。

禁煙を支援する薬局に対し、市薬剤師会と共催で研修会を開催しました。

世界禁煙デー、九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーンで、ポスターやちらしを関係機関・団体等に配布し、啓発を行いました。

【実績】

- ・店内終日禁煙店の推進
- ・歯と口の健康週間(中央行事)(6月 18 日、参加者 207 人)
- ・ライフステージ別禁煙・受動喫煙防止啓発リーフレット(16,130 部)、禁煙外来マップ(46,931 部)の作成・配布
- ・禁煙支援薬局研修の開催(8月 5 日、参加者 139 人)
- ・九都県市受動喫煙防止キャンペーンポスター作成・配布(629 部)
- ・世界禁煙デーポスターの配布(623 部)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
3,878 千円	1,272 千円

【30 年度以降の対応】

今後も事業を継続していきます。

109 骨髄移植普及及び啓発事業等

【事業内容】

白血病・再生不良性貧血等の難病患者に有効な治療法である骨髄移植の普及推進・啓発事業として、骨髄ドナー登録会などを実施するほか、献血や腎・アイバンク事業の支援等を行いました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
308 千円	211 千円

【30 年度以降の対応】

今後も事業を継続していきます。

【実績】

- ・ドナー登録会(献血並行型)の実施(7回、延べ登録者 51 人)
- ・かながわ健康財団実施の神奈川県腎・アイバンク事業に対する助成
- ・市庁舎献血(3回)や献血キャンペーンの協力

医療局

110 総合的ながん対策推進事業(がんに係る医療の充実)

【事業内容】

乳がん患者に対して組織横断的な多職種連携のチーム医療により、診療のほか患者支援及び診療所との連携を行う医療機関を「横浜市乳がん連携病院」として指定し、事業実施のための取組を支援しました。

「横浜市小児がん連携病院」では、診療連携の円滑化による診療の充実及び関係職種の研修による相談の充実、情報提供や相談支援の充実に取り組むための各種支援を行いました。

また、市内の都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院及び神奈川県がん診療連携指定病院の職員による意見交換会を開催し、病院間での連携を図り、今後の課題整理等を行いました。

【実績】

- ・乳がん連携病院指定(4病院)
- ・小児がん連携病院会議開催(6・2月)
- ・がん診療連携拠点病院等による意見交換会開催(3月22日、出席者13病院13人)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
5,580 千円	5,530 千円

【30年度以降の対応】

乳がん連携病院の事業実施の支援を行うほか連携会議を開催します。

また、小児がん連携病院間の連携強化や研修実施に資するよう、事業継続するほか、がん診療連携拠点病院等の連携への支援も継続して実施します。

111 総合的ながん対策推進事業(がんに関する子どもへのサポート支援)

【事業内容】

新たに療養中の子どもとその家族の支援を行う専門資格者、チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)を小児がん連携病院に試行派遣し、小児がん患者、保護者、家族及びきょうだい児への心のサポートを実施しました。

【実績】

2病院、各40日

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
900 千円	968 千円

【30年度以降の対応】

引き続き、未実施の小児がん連携病院へ専門資格者の試行派遣を実施します。

また、チャイルド・ライフ・スペシャリスト等の専門資格者を配置する小児がん連携病院への支援を新たに行います。

112 総合的ながん対策推進事業(仕事と治療の両立支援)

【事業内容】

がん患者の治療と仕事の両立支援策として、企業の人事・労務担当者向けセミナー及び病院の市民向け講演会に社会保険労務士を派遣して出前相談を行い、がん患者の就労支援の必要性への理解向上につなげました。

また、事業所への啓発として事業所向け啓発用DVD・リーフレット・ポスターをよこはまグッドバランス賞認定企業等に配布し、市内事業所でのがん患者の治療と仕事の両立支援への理解・普及を進めました。

また、がん患者の治療と仕事の両立支援の事業所向けの更なる啓発方法について、がん経験者が運営する企業に委託し、当事者視点での啓発を検討しました。

【実績】

- ・セミナー及び市民向け講演会への社会保険労務士の派遣(2回)
- ・啓発物品配布数(約600社)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
10,095 千円	1,068 千円

【30年度以降の対応】

引き続き、病院等が行う講演会での社会保険労務士の出前相談を実施します。また、がん患者の仕事と治療の両立支援について、事業所向けに啓発を行います。

113 総合的ながん対策推進事業(ピアサポート推進のための支援)

【事業内容】

がん患者やその家族の相談(ピアサポート)に応じるピアサポーターを養成するための講習会を実施しました。

また、がん患者及びその家族ががん経験者等に不安や悩みを相談できる場の増加を図るために、ピアサポーターによる相談事業を実施する市内病院の活動を支援しました。

《ピアサポーター》

がんの正しい知識と対話スキルを身に付け、患者や家族の心をサポートするがん経験者またはがん経験者の家族

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
1,700 千円	1,026 千円

【30年度以降の対応】

市内におけるがん患者によるピアサポートを引き続き支援していきます。

【実績】

- ・ピアサポーター養成講習会(3月21日)
- ・ピアサポーターによる相談事業への補助(3病院)

114 総合的ながん対策推進事業(アピアランス(外見)に関するケアへの支援)

【事業内容】

抗がん剤の副作用等、がんの治療に伴う頭髪の脱毛に悩むがん患者の社会参加や就労継続を支援するため、ウィッグや帽子等の購入経費の一部補助を行いました。

また、医療機関でのアピアランスケアの重要性や患者支援の方法について、がん診療に携わる医療従事者への講演会やがん診療連携拠点病院等の医療従事者向けに研修を行い、医療機関でのアピアランスケアを実施する人材を養成しました。

さらに、がん患者のアピアランスケアに取り組むがん診療連携拠点病院等に経費の一部補助を行いました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
14,692 千円	1,366 千円

【30年度以降の対応】

がん患者及びがん診療拠点病院への支援を引き続き行い、アピアランスケアの普及・啓発のための取組をさらに進めます。

【実績】

- ・がん患者へのウィッグ購入経費等補助(1,197件)
- ・市内医療従事者向け講習会(11月6日、参加者:21病院 105人)
- ・がん診療連携拠点病院等医療従事者向け研修(1月26日、3月2日、各回参加者 10病院 26人)
- ・アピアランス支援事業への補助(4病院)

115 総合的ながん対策推進事業(若年者の在宅療養に関する支援)

【事業内容】

小児慢性特定疾病医療費助成や介護保険の対象とならない20~39歳のがん末期と診断された患者の在宅生活を支援するために、在宅療養の際に利用する訪問介護や福祉用具貸与のサービス等にかかる経費の一部補助を行いました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
6,480 千円	637 千円

【30年度以降の対応】

今後も引き続き、市内における若年のがん患者の在宅生活を支援するために、事業を実施します。

【実績】

- ・若年者の在宅ターミナルケア支援のための補助(交付 10人)

116 総合的ながん対策推進事業(NPO法人が行うがんに関する活動の支援)**【事業内容】**

がん患者等関係団体のうち特定非営利活動法人が行う、市民のがんに対する理解を深める事業やがんに関わる人材育成事業等に対して、事業実施に必要な経費の一部を補助することにより、がん患者及びその家族への支援を行いました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
400 千円	300 千円

【30年度以降の対応】

がん患者等関係団体のうち特定非営利活動法人への支援を継続していきます。

【実績】

・NPO法人が行うがん関連事業補助(12月～2月、2件)

117 総合的ながん対策推進事業(緩和ケアに関する市民啓発)**【事業内容】**

がん患者の身体的又は精神的な苦痛、社会生活上の不安等を軽減する緩和医療について、市民啓発の一環として、がんの疼痛緩和をテーマとした市民公開講座及び講演会を後援したほか緩和ケアに関するシンポジウムを共催し、緩和ケアの充実に向け、市民意識の向上を図りました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
161 千円	0 千円

【30年度以降の対応】

緩和ケア病床の整備及び緩和ケアへの理解が進むよう、引き続き実施していきます。

【実績】

・市民公開講座及び講演会(11月12日、来場者60人)
・シンポジウム(12月9日、来場者177人)

118 総合的ながん対策推進事業(医療従事者の育成及び確保)**【事業内容】**

がん患者に対する診療体制の充実と医療の質の向上を目的に、専門看護師、認定看護師及び認定薬剤師等の養成のための人材教育経費を負担する市内医療機関等に対し、その経費の一部を補助することで、医療機関のがん治療に専門性を持つ医療従事者の育成を支援しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
5,000 千円	2,493 千円

【30年度以降の対応】

引き続き、市内医療機関においてがん治療に専門性を持つ医療従事者の育成を行われるよう、事業を実施していきます。

【実績】

・横浜市専門看護師等資格取得助成事業補助(12人)

119 総合的ながん対策推進事業(情報提供等)

【事業内容】

「横浜市がん対策推進キャンペーン」として JR 根岸線や市営地下鉄など6路線での貸切広告列車や横浜駅での大型広告掲出、市内有名スポットでのライトアップを行い、期間集中的な市民啓発を実施しました。そのほか、各区区民まつり等イベントでの啓発物品を配布し、広く市民に向けて、がんに関する正しい知識の啓発等を行いました。

また、保健医療関係団体が行う市民のがんに対する理解を深める事業等に対して補助を行いました。

がん相談支援センター及び小児がん相談窓口についての紹介パンフレットを配布し、相談先の周知を進めました。

【実績】

- ・「横浜市がん対策推進キャンペーン」での集中広報(10月)
- ・各区局でのラベンダーリボンの着用・配布(40,000個)
- ・啓発物品の作成・配布(22,000個)
- ・「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017」での PR(9月30日～10月1日)
- ・はまりんフェスタ(交通局)での PR(10月)
- ・保健医療関係団体が行うがん対策関連事業への補助(2件)
- ・がん相談支援センター等相談窓口紹介パンフレット作成・配布(6,500部)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
17,205 千円	14,904 千円

【30年度以降の対応】

30年度からは、医療局全体としての市民啓発の一環として、がんへの意識向上のための広報を行っていく予定です。

120 総合的ながん対策推進事業(情報の収集)

【事業内容】

本市のがん対策について、今後の施策を検討する際の参考とするため、無作為に抽出された市民を対象に、内閣府が平成28年度に実施した「がん対策に関する世論調査」と同様の調査を行い、横浜市内におけるがん対策に関する市民の意識調査を実施しました。

【実績】

- ・6月実施、971件回収(3,000件配布・回収率約32.4%)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
2,899 千円	725 千円

【30年度以降の対応】

今後も引き続き、情報の収集を実施します。

121 総合的ながん対策推進事業(がん研究の推進)

【事業内容】

横浜市立大学における高度で先進的ながん対策に係る研究の研究費等の一部を補助することにより、市内におけるがん対策に係る研究の推進を支援しました。

【実績】

- ・横浜市がん研究推進補助(1件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
50,000 千円	50,000 千円

【30年度以降の対応】

今後も引き続き、市内におけるがん治療への先端研究が推進されるよう事業を実施します。

市立市民病院

122 がん検診

【事業内容】

横浜市がん検診(胃、肺、大腸、子宮、乳、前立腺)と病院独自のオプション検診(胃がんリスク検診(ABC 検診)、喉頭・咽頭、肝胆膵、婦人科超音波(卵巣)、口腔、前立腺(40~49歳)、肺ヘリカルCT、PET-CT)等項目ごとに受診可能な14の検診を行いました。

要精密検査とされた方への二次検診や経過観察を行っています。がんが発見された場合は、速やかに市民病院での診断、治療を行うことができます

受診しやすい環境を整備するため、がん検診受診者を対象とした預かり保育を実施しました。

【実績】

- ・一次検診実績(延べ受診者数)
肺がん 2,926 人、胃がん 2,492 人、大腸がん 3,389 人、乳がん 3,186 人、子宮がん 3,312 人、前立腺がん 1,427 人、その他 8,367 人
- ・がん発見者数(44 人)
- ・預かり保育利用者数(9人)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

皮膚がんに対する新たな検査を始めます。

受診者の利便性向上のため、電話による予約可能期間を変更します。

子育て世代の受診者数増加に向けて、地域子育て支援拠点での周知等、市民への働きかけを強化します。

123 集学的治療・高度医療の充実

【事業内容】

安全な化学療法の実施に向け、医師、看護師、薬剤師等による「化学療法サポートチーム」を編成し、定期的な回診を実施するとともに、個々の医師、看護師へのサポートを行いました。

IMRT の施設基準を取得し、保険適用による前立腺がん治療を実施しました。

【実績】

- ・外来化学療法実績(5,827 件)
- ・前立腺がんに対するIMRTの治療実施件数(1,776 件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

新たな高難度の肝臓手術の推進等により肝悪性疾患に対する診療体制をさらに充実させます。

124 がん地域連携クリティカルパスの運用

【事業内容】

手術や放射線治療等の専門的ながん治療を終えたがん患者を、地域医療機関と共同して診察するために、病院と地域医療機関が診療計画や治療経過などを共有する「がん地域連携クリティカルパス」を運用しています。

【実績】

〔連携医療機関数〕

乳がん(28 医療機関)、肺がん(9 医療機関)、胃がん(14 医療機関)、大腸がん(11 医療機関)、肝がん(15 医療機関)、前立腺がん(21 医療機関)

〔連携実績〕

乳がん(49 件)、前立腺がん(31 件)、肺がん(1 件)、肝がん(1 件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

対象症例及び連携医療機関の拡大を図り、がん患者がより身近な地域で治療を継続できるように関係機関と連携を進めます。

125 がん患者相談支援事業

【事業内容】

がん相談支援センターにおいて、がんの治療や療養生活、患者の不安などに関する相談に応じるとともに、セカンドオピニオン外来では、当院の専門医師が、病状に関して参考となる意見や判断を提供し、患者自身が診断や治療について納得して判断されるための支援を行っています。

ハローワーク横浜から派遣された就職支援ナビゲーターや社会保険労務士による病院での出張就労相談を定期的実施しているほか、3月に「がん」と就労の両立に向けて」と題した市民公開講座及び個別相談会を同時に実施しました。

また、がんを体験されたピアサポーターが患者の気持ちに寄り添った相談対応を実施しています。

【実績】

- ・がん相談支援センターにおける相談実績(1,239件)
- ・セカンドオピニオン外来におけるがんのセカンドオピニオン(28件)
- ・就労相談件数(190件)
- ・就職支援ナビゲーター出張就労相談件数(14件)
- ・社会保険労務士出張就労相談件数(22件)
- ・ピアサポーター相談件数(43件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

引き続き、がん相談支援センターにおいて各種相談に応じていくとともに、月2回であったピアサポートを月4回へ倍増して実施します。

126 緩和ケアの充実

【事業内容】

苦痛緩和に関する相談を目的とした外来を設置し、様々な苦痛に対する早期スクリーニングに努めているほか、入院患者に対しては緩和ケア内科医師を中心に、認定看護師、薬剤師、管理栄養士等からなる「緩和ケアチーム」が診療にあたっています。

がん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を習得することを目的に「緩和ケア研修会」を開催し、当院職員だけでなく、地域の医療従事者の受講も受け入れています。

【実績】

- ・緩和ケア病棟入院延べ患者数(6,640人)
- ・緩和ケア病棟平均在院日数(20.1日)
- ・緩和ケア研修会受講者数(医師28人、医療従事者15人)
- ・緩和ケア研修会 がん関連診療科医師の研修終了率(93.9%)
- ・緩和ケアチームへの依頼件数(延べ637件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

がん診療連携拠点病院として、当院のすべてのがん診療に携わる医師が「緩和ケア研修」を受講すること等により、緩和ケア医療に充実を図ります。

127 院内がん登録

【事業内容】

国が定めた登録様式・定義に従い、がん登録実務者(国立がん研究センターの研修を修了している診療情報管理士等)が診療登録等の情報をもとに「院内がん登録」を実施しています。

平成29年度は、2016年症例として、平成28年1月1日から12月31日までの1年間に、当院で診断または他施設で既に診断され、当院に初診したがん患者に関する院内がん登録業務実績報告書をまとめたほか、平成24年院内がん登録症例の3年目及び平成22年症例の5年目の追跡調査を行いました。

【実績】

- ・全登録件数(1,972件)
- 胃(167件)、大腸(334件)、肝(40件)、肺(231件)、乳房(192件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

登録方法の更新への対応等、国立がん研究センター・国等の動向を踏まえ、適切ながん登録を実施していきます。

128 がんに関する治験・研究の推進

【事業内容】

厚生労働省がん研究班をはじめ、複数のがん研究に参加するほか、日本医療研究開発機構の研究課題に採択され、がんに対する治療の確立に向けた研究を進めるなど、国立がん研究センターをはじめとする各種研究機関、他病院との緊密な連携を図り、新しい治療の開発や承認前の新薬の治療を実施しました。

【実績】

・がん関連臨床試験新規実施件数(35件) うち医師主導臨床研究(33件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

治験・臨床試験の実施体制を充実させていきます。

市大附属病院が中心となって発足する「横浜臨床研究ネットワーク」を活用した治験・臨床試験も実施していきます。

129 がん検診・がん診療に関する情報発信

【事業内容】

横浜国立大学で大学生や教職員を対象とした講習会を実施し、若年層に対しがん検診や自己触診法の重要性について啓発しました。

「進化する肺がん治療」と題した講演を実施し、市民病院で行う最新の肺がん治療法や研究の成果を紹介するとともに、がんを体験したフットサル選手から、がん治療への向き合い方を伝えていただきました。

前立腺がんやがん検診に関する正しい理解や早期発見の重要性について普及啓発を図るため、前立腺がん啓発週間に「前立腺がんに負けない」と題した市民公開講座を開催しました。

【取り組み事項】

- ・横浜国立大学がん啓発講習会（11月17日、25人）
- ・市民公開講座「進化する肺がん治療」（2月24日、243人）
- ・前立腺がん啓発週間 市民公開講座（3月18日、125人）

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

引き続きがん検診や、がん治療に関する市民公開講座を開催するとともに、地域子育て支援拠点等で地域に密着した講習会を実施することにより、がん検診やがんに対する知識の普及啓発、新規検診受診者の増加に努めます。

市立みなと赤十字病院

130 がん検診

【事業内容】

豊富な人間ドック・健診コースとオプション検査の組み合わせにより、1人ひとりのニーズに合わせた「オーダーメイドヘルスチェック」を受けることができます(1日ドック、2日ドック、脳ドック、大腸ドック、肺ドック、レディースドック、スーパーがんドック、PET-CTがんドック、PET-CTスーパーがんドック)。また、横浜市がん検診の全種類(胃・大腸・肺・子宮・乳・前立腺)を実施しました。

二次受診勧奨と追跡調査を継続することで、がん発見に努めました。

受診者の利便性に配慮しインターネット予約や待合室での FreeWi-Fi のサービスを開始しました。

平成 29 年6月に「人間ドック健診施設機能評価」の認定を取得しました。

横浜 Leaf 献血ルームにおいて献血者に対し、健康相談とがん検診・人間ドック健診の受診勧奨を行いました。

【実績】

- ・横浜市がん検診(胃:X線 834 件、内視鏡:293 件、肺:1,456 件、大腸:1,514 件、子宮:679 件、乳房:786 件、前立腺:669 件)
- ・がん発見者数(平成 28 年度受診者における二次受診調査結果 47 人)
- ・PET-CT 健診検査件数(121 件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

がん検診の受診勧奨と二次受診の調査を継続し、受診率アップに繋げていきます。

個別化(オーダーメイド)予防の観点から個人の背景に応じた保健指導・受診勧奨を行います。

131 集学的治療・高度医療の充実

【事業内容】

がんの種類や進行度に応じて、手術療法、放射線治療、化学療法を組み合わせ、より高い治療効果を得るために「集学的治療」を行いました。

がんに対する胸腔鏡・腹腔鏡手術を実施しました。

病理診断請負事業を継続して実施しました。

がんに伴う症状や治療による副作用を軽減するため、標準的な支持療法を組み込んだ処方を用い、院内で統一した支持療法を行いました。

妊よう性温存に関する診療ガイドラインに沿って、患者、家族に説明し、必要に応じて連携先医療機関を紹介しました。

【実績】

- ・外来化学療法件数(6,054 件)
- ・ダ・ヴィンチによる手術件数(59 件)
- ・病理診断請負件数(1つの臓器につき)(1,145 件)
- ・PET-CT稼働件数(1,030 件)
- ・妊よう性温存に関する紹介件数(3件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

IMRTの設置を検討し、放射線治療専門医(IMRT経験者)・医学物理士などの人材の確保のため募集を行います。

専門医による診療体制の充実に向けて、人材(腫瘍内科専門医・ペインクリニック専門医等)の確保について検討します。

132 がん地域連携クリティカルパスの運用

【事業内容】

病理診断又は画像診断に関する依頼、手術、放射線治療、化学療法又は緩和ケアの提供に関する相談など、地域の医療機関の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力体制を基にして、がん地域連携パスを運用しました。

地域の医療機関を訪問し、がん地域連携パスの連携先施設拡大に努めました。

【実績】

〔連携医療機関数(3月31日現在)〕

胃がん(54 医療機関) 大腸がん(54 医療機関) 乳がん(4 医療機関) 前立腺がん(18 医療機関)

〔連携実績〕

胃がん(24 件) 大腸がん(57 件) 乳がん(74 件) 前立腺がん(0件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

がん地域連携クリティカルパスの普及啓発に努め、さらに連携を進めていきます。

133 がん患者相談支援事業

【事業内容】

がんに関すること全般について相談できる窓口として、がん相談支援センターを設置し、看護師やソーシャルワーカーが相談を受けました。新たに3人が「認定がん専門相談員」の資格を取得しました。

患者やその家族を対象に、からだところのバランスを整え、自分らしさを取り戻すためのがんサポートプログラムを「みなとサロン」で提供しました。

乳がん患者会(ひまわりの会)(原則毎月第3木曜日開催)において、患者と家族、同じ体験をした仲間などが気楽に話し合えたり、不安、悩み、体験談などを語り合う場の無料提供を行いました。(通院歴が無い方も参加可能)

がんに関する様々な悩みや不安について、臨床心理士やがん専門看護師、認定看護師が相談を受ける「がん看護サポート外来」を実施しました。

【実績】

- ・「みなとサロン」がんサポートプログラム(全11回、延べ参加者163人)
- ・がん相談支援センターにおける相談件数(2,372件)
- ・がんのセカンドオピニオン件数(8件)
- ・就労支援相談件数(16件)、社労士への連携件数(2件)
- ・がん看護サポート外来件数(139回、延べ74人)

局・事業本部事業

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【30年度以降の対応】

就労支援した患者に対するその後の進捗確認やフォローなど、相談者からのフィードバックを得る体制の整備について検討します。

134 緩和ケアの充実

【事業内容】

緩和ケア病棟(25床)を運営し、その人らしさ、自己決定権を尊重した医療・看護を提供しました。

緩和ケア医師、精神科医師、認定看護師、薬剤師、歯科口腔外科医師、歯科衛生士、放射線科医師、ソーシャルワーカー、管理栄養士、理学療法士、臨床心理士などで構成された緩和ケアチームでは、主治医等と協力して患者さんの症状緩和を中心とした治療や支援を提供しました。

スタッフの基本的緩和ケアの知識の普及を目指し、緩和ケア研修会を開催しました。

【実績】

- ・苦痛のスクリーニング実施数(892人)
- ・緩和ケア研修会(7月8・9日、延べ受講者28人)(医師28人)
- ・緩和ケア研修会 研修終了率(がん関連診療科の医師95.9%)
- ・緩和ケア病棟延べ入院患者数(7,555人)
- ・緩和ケア病棟平均在院日数(25.6日)
- ・緩和ケアチームへの依頼件数(延べ1,618件)

局・事業本部事業

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【30年度以降の対応】

苦痛のスクリーニング対象をさらに拡大し、すべての入院がん患者の苦痛の早期発見、軽減を目指します。

患者の希望に応じて、苦痛のある患者の早期入院や、在宅希望の患者のがん地域連携クリティカルパスを使った早期退院を実施します。

135 医療従事者の育成確保

【事業内容】

がん患者の症状や診断、治療方針について意見交換し検討するために、がん患者ボードを定期的に開催し、最新の医学、エビデンスに基づき、患者さんに最善の治療方針の検討を行いました。

地域のがん診療施設で連携して講演会や勉強会を開催しました。

緩和ケアを必要とする人や、人生の終焉を迎える患者さんとその家族に適切なケアを提供できる知識・技術を習得するための看護師教育プログラムを開催しました。

【実績】

- ・がん患者ボードの実施回数(336回)
- ・緩和ケア講演会(1回、72人)
- ・国立がん研究センター主催の各研修会(延べ参加者数5人)
- ・横浜みんなの緩和ケア勉強会(2回、延べ参加者数111人)
- ・横浜(南)がんリハビリテーション病病連携会(2回、延べ76人)
- ・横浜・川崎がん病病連携会講演会(3回、延べ参加者数263人)
- ・ELNEC-J 看護師教育プログラム(受講者数36人)

局・事業本部事業

H29 予算額 千円	H29 決算額 千円
---------------	---------------

【30年度以降の対応】

引き続き複数領域にまたがるがん症例の他施設・多職種による勉強会、がん患者ボードを共同開催(顔の見える連携のさらなる推進)します。

136 院内がん登録

【事業内容】

平成 28 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に悪性新生物及び脳の良性新生物と診断された症例 1,598 件について、「がん診療連携拠点病院 院内がん登録 標準登録様式 2016 年版」の定義に基づき登録・集計を行いました。

【実績】

- ・全登録件数(1,598 件)
- 胃(181 件)、大腸(直腸及び結腸)(284 件)、肝及び肝内胆管(53 件)、気管支及び肺(134 件)、乳房(282 件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

引き続き院内がん登録・集計を実施します。

137 がんに関する治験・研究の推進

【事業内容】

平成 27 年 4 月に臨床試験支援センターを開設し、臨床研究・臨床試験に職員が意欲的に取り組むことができるように、積極的なサポートを行いました。

その体制のもと、がんに対する新しい治療、有効な治療についての研究を実施しました。

【実績】

- ・がん関連臨床試験新規実施件数(11 件) うち医師主導臨床研究(8 件)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

導入した治験管理システムの運用の定着化を図ります。

治験受託件数の増加に向けて、各診療科へ働きかけ未実施の診療での治験実施につなげます。

試験の実施状況について把握できる体制を整えられるよう研究者と情報共有を努めます。

138 がん検診・がん診療に関する情報発信

【事業内容】

一般市民の方に、がんについて正しい知識を身につけていただくことを目的として、市民向けセミナーや市民公開講座を開催しました。

院内組織として「がんセンター」を設置しており、講演会や勉強会を開催するなど地域への情報発信を行いました。

中区の障害者支援団体、介護サービスの事業者ネットワークにおいて、がん相談や就労支援について情報提供を行いました。

【実績】

- ・第 14 回みなと市民セミナー「知っていますか肺がんのこと～もっと知りたい治療と予防～」(3月 21 日、参加者 134 人)
- ・第 3 回横浜・川崎がん病連携会市民公開講座「大腸がん・乳がん・がん予防～最新の話～」(3月 17 日、参加者 44 人)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

引き続き、講演会等を実施し、市民の方や地域に対して、がんに関する情報を発信して正しい知識の普及に努めます。

環境創造局

139 がん相談支援センターの PR

【事業内容】

がん相談支援センターをPRするウェットティッシュ(医療局作成)を、イベント出展の際に配布し、PRしました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

- ・よこはま国際フェスタ 2017 での配布(10月9日)
- ・野毛山動物園 動物たちの SOS 展での配布(3月4日)
- ・金沢動物園 春まつりでの配布(3月18日)

【30年度以降の対応】

引き続き、イベントで PR できるよう、検討していきます。

水道局

140 「はまっ子どうし The Water」ピンクリボンボトルで乳がん検診の大切さをPR

【事業内容】

乳がんの早期発見・早期治療の大切さを伝えるピンクリボンかながわ(事務局:公益財団法人神奈川県予防医学協会)との協働により、横浜市オフィシャルウォーター「はまっ子どうし The Water」のピンクリボンボトルを9月1日に販売開始しました。パッケージには、ピンクリボンかながわ代表・土井卓子医師からの乳がんに関するメッセージを掲載しており、ボトルを手にとっただけで、乳がん検診の大切さを広めることを目的の一つとしています。

【実績】

- ・「はまっ子どうし The Water」ピンクリボンボトルの平成 29 年度販売数: 16,800 本(平成 29 年9月1日販売開始)
- ・啓発チラシの作成・配布(ピンクリボンイベント等で配布・約 2,000 枚)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

平成 29 年度は、ピンクリボンイベントや検診者への配布用として販売していましたが、今後は自動販売機への設置などさらなるPRを目指しています。

141 ピンクリボンかながわとのコラボレーション

【事業内容】

ピンクリボンかながわから水道局パートナーシップデスクへのコラボレーション申込みにより、お互いの強みを活かした取組を行いました。

- ① 備蓄飲料水「横浜水缶」のピンクリボン缶の製造・販売
- ② ピンクリボンかながわからの講師派遣による水道局職員向けがん啓発研修の開催

【実績】

- ・ピンクリボン缶の製造・販売(計 95,832 缶)
- ・ピンクリボンかながわが参加する「横浜カーフリーデー2017」で水缶の配布(9月23日、計 163 缶)
- ・職員向けがん啓発研修(10月27日、参加者8人)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

今後、同様に申込みをいただいた際に検討していきます。

教育委員会事務局

142 教職員定期健康診断(生活習慣病健康診断)

【事業内容】

本市教職員に対する定期健康診断のうち、一定年齢(30、35、39 歳以上)に該当する職員を対象とした「生活習慣病健康診断」において、次の年齢要件を満たす希望者について、がん検診を実施しました。

- ・胃検診(X線直接撮影)30、35、40 歳以上
- ・婦人がん検診(子宮がん:頸部細胞診、乳がん:超音波又はマンモグラフィ＋視触診)30、35、40 歳以上で偶数年齢
- ・大腸がん検診(便潜血反応検査[二日法])40 歳以上で偶数年齢

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
32,921 千円	24,116 千円

【30 年度以降の対応】

引き続き、同内容で実施することを検討しています。

【実績】

・胃検診	2,611 人
・婦人がん検診(乳がん:超音波＋視触診)	216 人
・婦人がん検診(乳がん:マンモグラフィ 2 方向＋視触診)	289 人
・婦人がん検診(乳がん:マンモグラフィ 1 方向＋視触診)	342 人
・大腸がん検診	1,266 人

143 がん教育

【事業内容】

文部科学省の「がんの教育総合支援事業」を受託している神奈川県と連携し、学校におけるがん教育の方法、教材の作成等について検討を行いました。その一環として、市内の中学校においてがん教育のモデル授業(公開)を開催し、学校長、教諭、養護教諭等とともに、外部講師、県内の他自治体の担当者等とがん教育の方法や次年度以降の取組について意見交換を行いました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

文部科学省が定めるがん教育のあり方を踏まえ、神奈川県や文部科学省の教材を使用した授業や外部講師を活用した授業の実践例を紹介しながら推進していきます。

【実績】

がん教育モデル授業及び意見交換会の実施

- ・森中学校(11 月 21 日、授業参加者数 150 人、意見交換会参加者数 15 人)

新学習指導要領実施に向け、中学校保健体育科の学習内容に加わった「がんの予防」について、指導方法や内容の研究などに取り組みます。

144 中央図書館 医療講座の実施

【事業内容】

テーマを選定し、その分野で活躍する専門家を講師に招き、講演および質疑応答を行う企画事業。平成 29 年度は、横浜市立大学との共催により実施しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30 年度以降の対応】

30 年度も横浜市立大学と連携し、医療講座を 1 回実施します。引き続き、がんや周辺医療に関連する企画を実施し、市民への情報発信、啓発に努めます。

【実績】

市立大学市民医療講座「大腸がんで死なないために」

(10 月 26 日、参加者数 117 人)

145 中央図書館 医療・健康関連企画展示の実施**【事業内容】**

医療や健康、がんの診断・治療・闘病に関する図書を展示し、関連するパネルを掲示、ブックリストやパンフレット・ちらしを配布する企画事業。平成 29 年度は、本市区局との連携により実施しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

- ・企画展示「健康づくり情報パネル展」(共催:西区)7月19日～8月20日
- ・企画展示「がんについて知る」(共催:西区)10月11日～10月29日

【30年度以降の対応】

引き続き、関連局・区と連携し、図書等資料の紹介・貸出、ブックリストやパンフレット・ちらし等の配布を通じて、がん予防や生活習慣病予防など、健康意識の啓発推進に努めます。

146 地域図書館における啓発展示**【事業内容】**

医療や健康、がんの診断・治療・闘病に関する図書を展示し、関連するパネルを掲示、ブックリストやパンフレット・ちらしを配布しました。

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【実績】

- ・都筑図書館における展示「10月は乳がん月間」(協力:都筑区)9月29日～10月31日
- ・栄図書館における展示「皆で知ろう!自殺予防、がん検診、結核のポイント」(主催:栄区)9月1日～29日

【30年度以降の対応】

横浜市立大学

147 がん医療に関する医療機器の更新・導入

【事業内容】

手術療法、放射線療法、化学療法など、高度ながん医療を実施していくために必要な医療機器について、計画的な更新や新規導入を行い、医療水準の維持及び向上を図っています。

附属病院では、手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)によるロボット支援型手術について、保険収載されている前立腺がんおよび腎がんのほか、臨床研究として胃がんと直腸がんを中心に実施しました。また、婦人科領域については、内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術が先進医療の承認を受けました。

【実績】

・ダ・ヴィンチによる部位別手術件数

前立腺(泌尿器科):122件 腎(泌尿器科):67件
 膀胱(泌尿器科):2件 子宮(産婦人科):3件
 胃(一般外科):8件 直腸(消化器・肝移植外科):18件

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

引き続き、取組を推進していきます。

なお、ダ・ヴィンチにおいては、平成30年度から胃がんおよび直腸がんに対するロボット支援型手術が保険収載されました。附属病院ではすでに十分な経験があるため、ただちに保険診療として実施していきます。

148 がん相談支援センターの運営

【事業内容】

がん診療連携拠点病院として、がん患者や家族からの電話及び面談による相談に対応しました。

【実績】

＜附属病院＞

・電話による相談 2,460件
 ・面談 4,998件

＜市民総合医療センター＞

・電話による相談 234件
 ・面談 262件
 ・その他 82件

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

引き続き、取組を推進していきます。(※本事業は国補助対象)

149 がん患者及びその家族等への支援

【事業内容】

患者会への支援及びがんサロンを通じた患者支援を行いました。

＜附属病院＞

患者会「ハートマンマの会(乳がん)」、「わいわいクローバーの会(子宮がん)」、「港笛会(喉頭がん)」、「さんふらわ(小児科親子の会)」、「心愛の会(血液疾患・造血幹細胞移植関係)」の活動を支援しました。

＜市民総合医療センター＞

患者会「乳がんおしゃべりの会 マンマサロン(乳がん)」、「乳房再建の会再建サロン(乳房再建)」の活動を支援しました。

【実績】

＜附属病院＞「はまかぜサロン」を年12回開催

＜市民総合医療センター＞「がんサロン」を年5回開催(平成29年11月開始)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

引き続き、取組を推進していきます。

150 緩和ケアの充実

【事業内容】

医療従事者向けに緩和ケア研修会(疼痛緩和、精神緩和、身体緩和、コミュニケーション技術等をテーマにした講義及びワークショップ)を実施しました。

緩和ケアチームによる院内横断的な活動により、患者さんの苦痛を緩和しました。

【実績】

緩和ケア研修会

<附属病院>

第1回:9月9・10日、第2回:11月25・26日、延べ参加者数121人

<市民総合医療センター>

第1回:4月22・23日、第2回:5月21・28日、第3回:6月3・4日、

第4回:1月27・28日、延べ参加者数192人

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

引き続き、取組を推進していきます。

151 医療従事者の育成及び確保

【事業内容】

がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成を行いました。

文部科学省の推進する、多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プランには全国で11件(81大学)の取組が採択され、その1つとして東京大学(主幹)・横浜市立大学・東邦大学・自治医科大学・北里大学・首都大学東京の申請した「がん最適化医療を実現する医療人育成」プログラムが採択されました。本プランでは All-Japan として全国の大学連携拠点を推進し、大学の枠をこえた多職種の人材育成を行います。「ゲノム医療」「小児・希少がん」「ライフステージ」の新ニーズに対応したがんプロフェッショナルを育成し、多職種教育、がん医療の均てん化のより一層の推進を目指します。

【実績】

・がんサードボード:年19回開催、延べ参加者数591人

・6大学合同セミナー(遠隔同時中継):年8回開催

・医学国際化セミナー・がんプロ公開セミナー(同時開催):年1回開催

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

引き続き、取組を推進していきます。(※本事業は国補助対象)

新たに博士課程「Next Generation Oncologist 養成コース」、多職種を養成する「次世代オンコロジー医療スタッフ」養成インテンシブプログラムについて、29年度に準備を進め、30年4月からカリキュラムを開始します。

152 がん登録の推進

【事業内容】

がん診療連携拠点病院として、診療情報管理士を雇用し、国の標準様式によるがん登録を実施しました。また、院内がん登録で収集したデータは、神奈川県悪性新生物登録事業(地域がん登録)にも提供しました。

【実績】

・院内がん登録提出件数 ※29年度提出(28年実績)

<附属病院>

2,528件

<市民総合医療センター>

2,733件

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

引き続き、取組を推進していきます。

153 がんに関する市民向け講座**【事業内容】**

エクステンション講座として、がんに関する市民向け講座を開催しました。

【実績】

- ・“皮膚がん”最新治療(6月、178人)
- ・女性のがん～進行がんのリスクを減らすために～(7月、63人)
- ・最新の肝臓病治療を知ろう(7月、218人)
- ・がん転移抑制法～タンパク質分解酵素の抑制が突破口になり得るか～(8月、92人)
- ・大腸癌で死なないために(10月、110人)
- ・婦人科がんの最新治療(12月、108人)
- ・今からできる！がん早期発見～人生100年時代を見据えて～(2月、168人)
- ・切らずに治すがんの放射線治療(3月、161人)
- ・がんゲノム医療最前線(3月、137人)

局・事業本部事業

H29 予算額	H29 決算額
千円	千円

【30年度以降の対応】

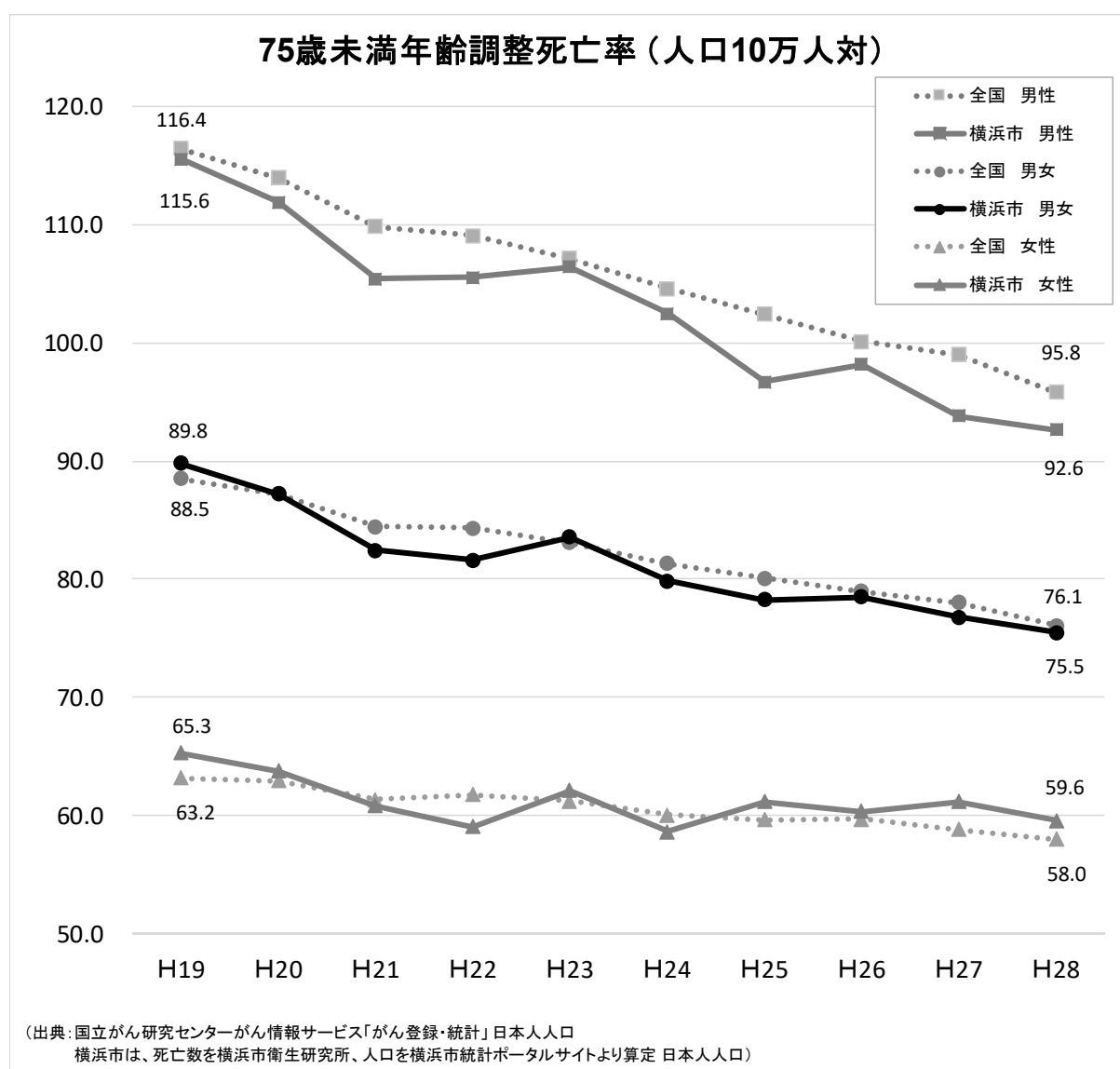
引き続き、取組を推進していきます。

◎ 75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人対）

国の「がん対策推進基本計画」の全体目標の1つとして「がんによる死亡者の減少」が掲げられました。「75歳未満年齢調整死亡率」はその評価指標として用いられています。この指標が用いられたのは、年齢調整率を用いることで高齢化の影響を除去し、75歳以上の死亡を除くことで壮年期死亡の減少を高い精度で評価するという理由に基づいています。

横浜市の75歳未満年齢調整死亡率は、全国合計とほぼ同水準で推移し、減少傾向となっており、平成28年は、全国合計と比べ0.6低くなっています。

また、男女別でみると平成28年は、男性が全国平均より3.2低く、女性が全国平均より1.6高くなっています。



○横浜市がん撲滅対策推進条例

平成26年6月13日
条例第42号

横浜市がん撲滅対策推進条例をここに公布する。

横浜市がん撲滅対策推進条例

日本人の死亡原因の第1位はがんによるもので、およそ3人に1人ががんによって亡くなっている。がんの罹患率は年々増加傾向にあり、横浜市民にとって今や特別な疾病とはいえながんと向き合い、その撲滅に向けた総合的な対策を講ずることは急務である。現在、横浜市においては、がん医療に対する調査、最新医療技術の研究を進めるとともに、地域がん診療連携拠点病院の指定などの政策を推進しているところではあるが、今後、更に患者の目線に立ったきめ細やかな取組を計画的に進めていく必要がある。

そして、その取組は、がんの疾病としての特徴に鑑み、予防・早期発見・発症部位や発見時期によって異なる医療提供・最新情報の提供・再発防止・緩和ケア・患者家族等関係者への支援等をそれぞれが分断されることなく、患者の就労支援を含め、患者が社会との関わりを保ちながら水準の高い医療と生活を共に享受できるものとしていかなければならない。

国及び神奈川県のがん施策に連動しつつ、横浜市の取組ががんと向き合う全ての関係者のより強力な支えとなることを目指し、ここに横浜市がん撲滅対策推進条例を制定する。

(目的)

第1条 この条例は、がんの撲滅を目指し、がん対策基本法(平成18年法律第98号)及び神奈川県がん克服条例(平成20年神奈川県条例第25号)の趣旨を踏まえ、横浜市(以下「市」という。)のがん対策に関する施策の基本となる事項を定めることにより、がんの予防及び早期発見に資するとともに、全ての市民が適切ながんに係る医療を受けられるようにするための総合的ながん対策を推進することを目的とする。

(市の責務)

第2条 市は、国、神奈川県(以下「県」という。)、医療機関、医療関係団体及び保健医療関係者(がんの予防若しくは早期発見の推進又はがんに係る医療に携わる者をいう。以下同じ。)並びにがん患者及びその家族等で構成される団体その他の関係団体(以下「がん患者等関係団体」という。)との連携を図りつつ、がん対策に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

2 前項の施策は、医療のほか介護、福祉、教育、雇用等幅広い観点からの検討を踏まえて策定されるものでなければならない。

3 市は、各区の地域性に応じ、前2項の規定により策定された施策について、当該各区の区民への周知を図り、その理解及び関心を深めるよう努めるものとする。

(市民の責務)

第3条 市民は、市が実施するがん対策に関する施策に協力し、喫煙、食生活、運動その他の生活習慣及び生活環境が健康に及ぼす影響等がんに関する正しい知識を持ち、がんの予防に必要な注意を払うよう努めるとともに、積極的にがん検診を受けるよう努めなければならない。

(保健医療関係者の責務)

第4条 保健医療関係者は、市が実施するがん対策に関する施策に協力し、がんの予防に寄与するよう努めるとともに、がん患者の置かれている状況を深く認識し、かつ、その意向を十分に尊重し、適切ながんに係る医療を行うよう努めなければならない。

- 2 保健医療関係者は、がん患者及びその家族等に対し、積極的にこれらの者が必要とするがんに関する情報を提供するよう努めるものとする。

(事業者の責務)

第5条 事業者は、市が実施するがん対策に関する施策に協力するとともに、従業員ががんを予防し、又は早期に発見することができる環境の整備に努めなければならない。

- 2 事業者は、従業員又はその家族ががん患者となった場合であっても、当該従業員が勤務を継続しながら治療し、療養し、又は看護することができる環境の整備に努めなければならない。

(がんの予防の推進)

第6条 市は、喫煙、食生活、運動その他の生活習慣及び生活環境が健康に及ぼす影響に関する知識の普及啓発その他がんの予防の推進のために必要な施策を講ずるものとする。

- 2 市は、健康増進法(平成14年法律第103号)第25条に規定する施設を管理する者又は神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例(平成21年神奈川県条例第27号)第2条第4号に掲げる施設管理者と連携し、受動喫煙の防止の推進のために必要な施策を講ずるものとする。
- 3 市は、女性に特有のがんである子宮頸がんに関し、罹患しやすい年齢を考慮した予防手段についての正しい知識の普及啓発のため必要な施策を講ずるものとする。

(がんの早期発見の推進)

第7条 市は、がんの早期発見に資するよう、保健医療関係者、がん患者等関係団体等と連携し、がん検診の受診率及び質の向上等を図るために、次に掲げる施策を講ずるものとする。この場合において、市は、必要に応じ市のがん対策に賛同する事業者等による提案又は創意工夫を活用するほか、当該施策の効果的な実施を図るために必要な検討を加えるものとする。

- (1) がんの早期発見の重要性に関する啓発及び広報
 - (2) がん検診の受診が可能な医療機関等の周知
 - (3) がん検診の受診に係る費用の助成
 - (4) 年齢、性別等を考慮したがん検診の受診の勧奨
 - (5) がん検診の精度管理の充実
 - (6) 前各号に掲げるもののほか、がんの早期発見の推進に関し必要な施策
- 2 市は、毎年、期間を指定し、がんの早期発見の重要性に関する啓発及び広報等を重点的かつ効果的に実施するものとする。

(がんに係る医療の充実)

第8条 市は、がん患者がそのがんの状態に応じた適切ながんに係る医療を受けることができるようにするため、県、医療機関等と連携し、次に掲げる施策を講ずるものとする。

- (1) がん診療連携拠点病院(がんに係る専門的な医療の提供、がん患者に対する相談支援及び情報提供等を行うことを目的として厚生労働大臣の指定を受けて設置される医療機関をいう。)及びこれに準ずる病院の整備及び機能の強化
- (2) 手術療法、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた治療法の普及並びに高度で先進的な医療技術の導入の推進
- (3) 地域連携クリティカルパス(第1号に掲げる病院と地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表及び患者用診療計画表から構成されるがん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。)の活用等による同号に掲げる病院相互間又は同号に掲げる病院とその他の医療機関等との連携の強化

- (4) 小児がんの実態把握の強化並びに診療に係る医療機関相互の連携及び協力の促進
- (5) 前各号に掲げるもののほか、がんに係る医療の充実に必要な施策

(がん患者及びその家族等への支援)

第9条 市は、がん患者の療養生活の質の維持向上並びにがん患者及びその家族等の精神的な苦痛、社会生活上の不安等の軽減に資するため、県、医療機関等と連携し、次に掲げる施策を講ずるものとする。

- (1) がん患者及びその家族等に対するセカンドオピニオン(診断又は治療に関する担当医師以外の医師の意見をいう。)を含めた相談体制の充実強化
- (2) がん患者等関係団体が行うがん患者の療養生活及びその家族等に対する活動の支援
- (3) 前2号に掲げるもののほか、がん患者及びその家族等への支援に関し必要な施策

(緩和ケアの充実)

第10条 市は、がん患者の身体的又は精神的な苦痛、社会生活上の不安等の軽減を目的とする医療、看護その他の行為(以下「緩和ケア」という。)の充実に図るため、県、医療機関等と連携し、次に掲げる施策を講ずるものとする。

- (1) 緩和ケアを提供する医療機関の整備の促進
- (2) 緩和ケアに関する専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成
- (3) がん患者の状況に応じたがんと診断された時からの緩和ケアの推進
- (4) 緩和ケアに係る地域における連携協力体制の整備
- (5) 居宅において緩和ケアを受けられることができる体制の整備
- (6) 前各号に掲げるもののほか、緩和ケアの充実に必要な施策

(在宅医療の充実)

第11条 市は、がん患者がその居宅において療養できる体制の整備のため、次に掲げる施策を講ずるものとする。

- (1) がんに係る在宅医療に従事する医師、看護師その他の医療従事者及び介護従事者の育成及び確保
- (2) 医療機関、介護サービス事業者その他がんに係る在宅医療に関わる団体等の連携の強化
- (3) 在宅医療を希望するがん患者及びその家族等に対する情報提供、相談支援等の充実
- (4) 前3号に掲げるもののほか、がんに係る在宅医療の充実に必要な施策

(医療従事者の育成及び確保)

第12条 市は、手術療法、放射線療法、化学療法その他のがんに係る医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成及び確保を図るため、必要な施策を講ずるものとする。

(情報の収集及び提供等)

第13条 市は、市民ががんに係る医療に関する適切な情報を得られるよう、国、県、医療機関等と連携し、情報の収集に努めるものとする。

- 2 前項の規定による情報の収集は、世界保健機関その他の国際機関及び諸外国の高度で先進的ながんに係る医療に関する情報を対象とするなど、幅広い観点から行うものとする。
- 3 市は、市民に対し、がんに係る医療、がん患者及びその家族等の支援等に関する情報を提供するため、県、医療機関等と連携し、必要な広報活動その他の施策を講ずるものとする。

- 4 市は、がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)によるがん登録(同法第2条第2項に規定するがん登録をいう。)の推進に協力するものとし、全国がん登録情報(同条第7項に規定する全国がん登録情報をいう。以下同じ。)等を利用して得られた知見に基づき、医療機関に対し、がんに係る医療の質の向上に資する情報を提供するとともに、当該知見について、市民が理解しやすく、かつ、がん患者の治療方法の選択に資する形で公表するよう努めるものとする。
- 5 市は、白血病等の血液がんに対する有効な治療法である骨髄移植及び臍帯血移植を促進するため、医療機関、医療関係団体等と連携し、骨髄バンク事業及び臍帯血バンク事業の普及啓発その他の必要な施策を講ずるものとする。

(がん研究の推進)

第14条 市は、公立大学法人横浜市立大学におけるがん対策に係る研究に対する支援その他の高度で先進的ながん対策に係る研究が推進されるために必要な施策を講ずるものとする。

(情報等の活用)

第15条 市は、第13条第1項及び第2項の規定により収集した情報、全国がん登録情報並びに前条の規定により得られた研究の成果が活用されるために必要な施策を講ずるものとする。

(財政上の措置)

第16条 市は、がん対策に関する施策を計画的に実施するため、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

(表彰)

第17条 市は、第5条の規定による環境の整備その他がん対策の推進に関し特に著しい功績のあったものに対し、表彰を行うものとする。

(市会への報告)

第18条 市長は、毎年、市会にがん対策に関する施策の実施状況を報告しなければならない。

(委任)

第19条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この条例は、平成26年10月1日から施行する。ただし、第13条第4項及び第15条(全国がん登録情報に係る部分に限る。)の規定は、がん登録等の推進に関する法律の施行の日から施行する。

